

佐久市埋蔵文化財調査報告書第91集

一本柳遺跡群

NISHI IPPON YANAGI

西一本柳遺跡群 V・VI

NAKA NAGA TUKA

中長塚遺跡 I・II

MATU NO KI

松の木遺跡 I・II

2001.3

佐久建設事務所  
佐久市教育委員会

一本柳遺跡群

NISHI IPPON YANAGI

西一本柳遺跡群 V ・ VI

NAKA NAGA TUKA

中長塚遺跡 I ・ II

MATU NO KI

松の木遺跡 I ・ II

2001.3

佐久建設事務所  
佐久市教育委員会





西一本柳遺跡V・VI航空写真（南を望む。手前のVI地区はまだ調査されていない。）





西一本柳遺跡V・VI航空写真





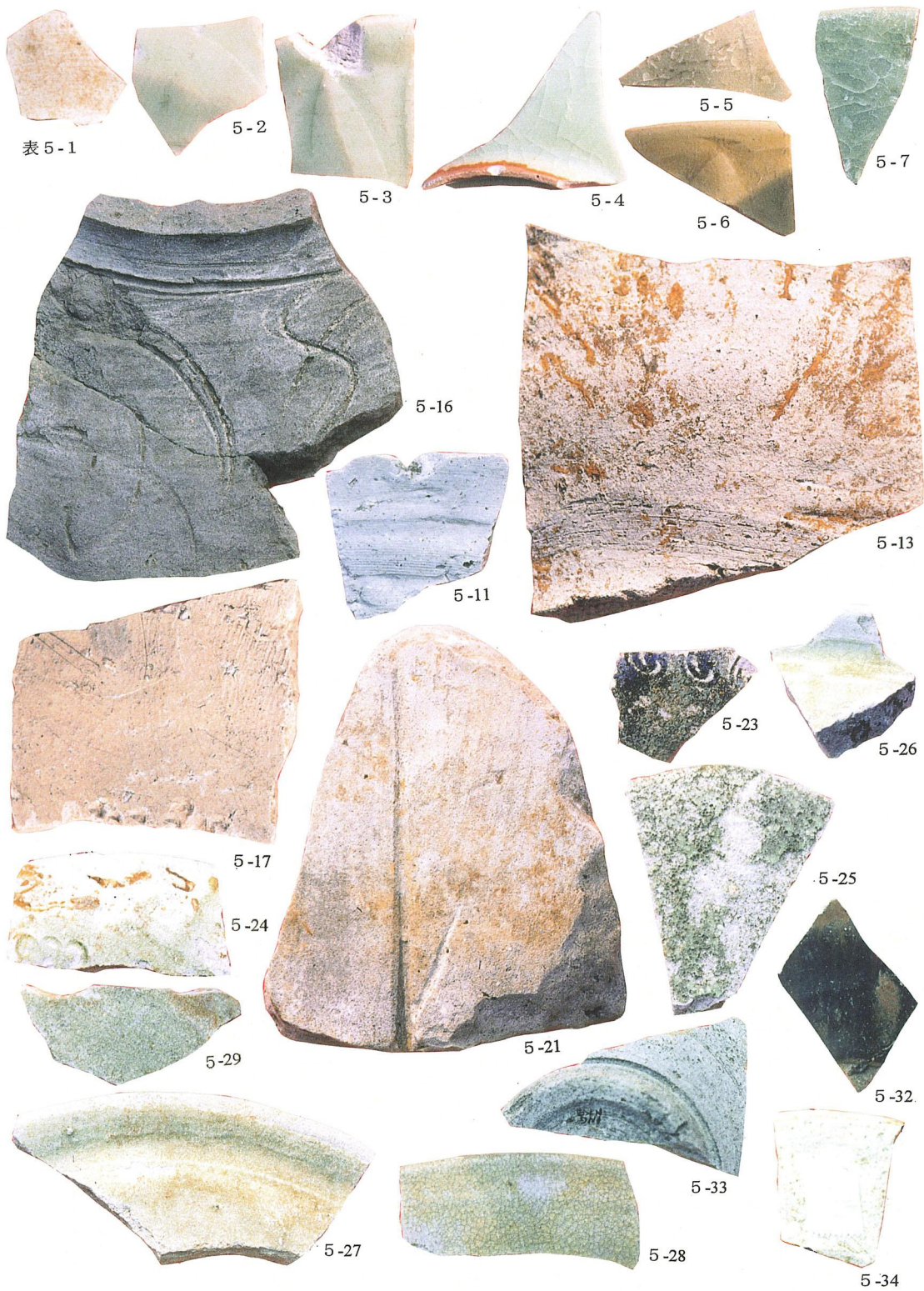
西一本柳遺跡V M5号溝状遺構出土遺物





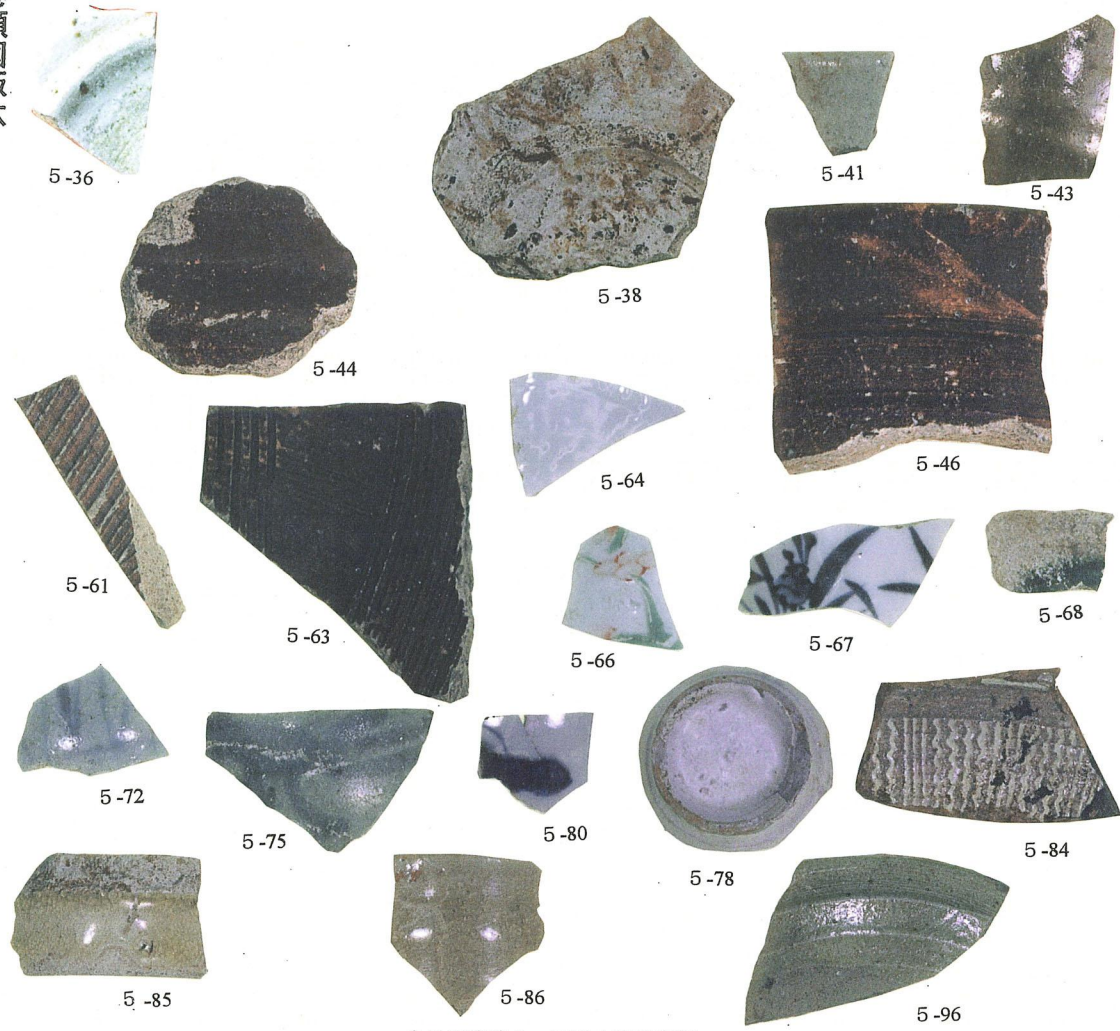
西一本柳遺跡Ⅴ M5号溝状遺構出土遺物



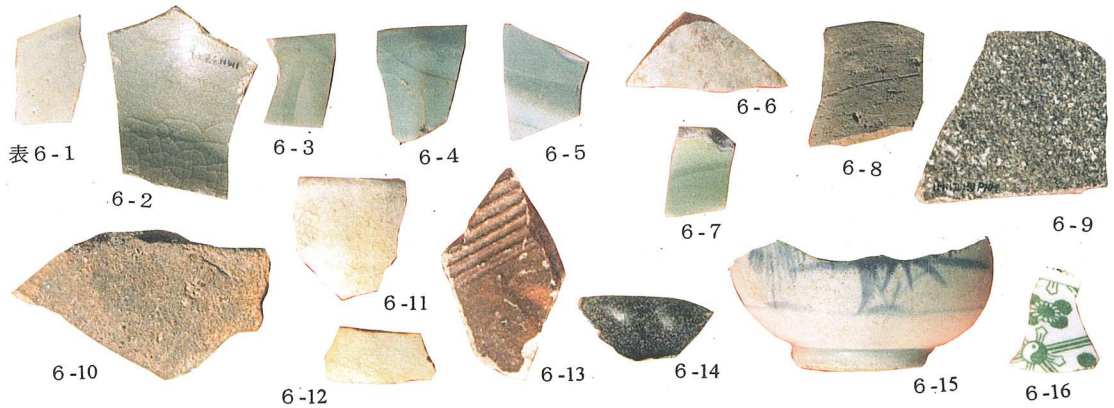


中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ出土陶磁器類





中長塚遺跡 I・II 出土陶磁器類



松の木遺跡 I・II 出土陶磁器類



## 例 言

1. 本書は、佐久建設事務所が行う国補道路改良工事（国道 141 号佐久市長土呂バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
2. 調査委託者 佐久建設事務所
3. 調査受託者 佐久市教育委員会
4. 遺跡名 一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅴ・Ⅵ 中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ 松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ
5. 所在地・調査期間・調査面積

	西一本柳遺跡Ⅴ	西一本柳遺跡Ⅵ	中長塚遺跡Ⅰ	中長塚遺跡Ⅱ	松の木遺跡Ⅰ	松の木遺跡Ⅱ
所在地	大字岩村田字下樋田	大字岩村田字下樋田	大字岩村田字中長塚	大字岩村田字中長塚	大字岩村田字松の木	大字岩村田字狭石
発掘調査	平成 8 年 5 月 27 日 ～ 6 月 25 日	平成 9 年 6 月 10 日 ～ 6 月 16 日	平成 8 年 5 月 7 日 ～ 6 月 16 日	平成 10 年 11 月 19 日 ～ 11 月 30 日	平成 8 年 7 月 26 日 ～ 11 月 22 日	平成 9 年 7 月 17 日 ～ 8 月 25 日
整理期間	平成 8 年 5 月 26 日～平成 13 年 3 月 30 日					
調査面積	1,400 m <sup>2</sup>	1,440 m <sup>2</sup>	4,700 m <sup>2</sup>	660 m <sup>2</sup>	4,000 m <sup>2</sup>	2,012 m <sup>2</sup>

### 6. 調査体制 平成 8～12 年度

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長 依田英夫				
事務局	教育次長	市川 源 (平成 8・9 年度)	北沢 馨 (平成 10 年度)			
	埋蔵文化財課長	北沢元平 (平成 8 年度)	須江仁胤 (平成 9・10 年度)			
	埋蔵文化財管理係長	榎沢慶子 (平成 8・9 年度)				
	埋蔵文化財管理係	田村和広 (平成 8 年度)				
	埋蔵文化財係長	大塚達夫 (平成 8・9 年度)	荻原一馬 (平成 10 年度)			
	埋蔵文化財係	林 幸彦 三石宗一 (平成 8・9 年度)	須藤隆司			
		小林真寿 羽毛田卓也 富沢一明 上原 学				
調査受託者	佐久市教育委員会	教育長 依田英夫 (平成 11 年度より組織改正により課名変更)				
事務局	教育次長	小林宏造				
	文化財課長	草間芳行				
	文化財係長	荻原一馬				
	文化財係	林 幸彦 須藤隆司 小林真寿 羽毛田卓也 富沢一明 上原 学				
		山本秀典 出澤 力				
調査主任	佐々木宗昭 森泉かよ子	調査副主任 堺 益子				
調査員	浅沼ノブ江 阿部和人 荒井利男 飯沢つや子 磯貝はな 井上行雄 井出愛子					
	井出徳四郎 上原芳男 江原富子 小田川 栄 柏原松江 川多アヤ子 金森治代					
	小幡弘子 神津ツネヨ 神津よしの 小須田サクエ 小金沢たけみ 小林立江 小林幸子					
	小林よしみ 小山澄恵 小山正吉 木内明美 桜井牧子 佐々木正 佐藤愛子					
	佐藤志げ子 島田幹子 土屋貞子 角田すづ子 角田トミエ 東城友子 東城幸子					
	徳田代助 中島武三郎 中島照夫 新津幸雄 並木ことみ 花里八重子 花岡美津子					
	林美智子 星野良子 細萱ミスズ 真嶋保子 増野深志 水間雅義 宮川百合子					
	桃井もとめ 柳沢千賀子 山崎 直 渡邊久美子 渡辺倍男					

### 6. 本書の執筆、編集は次のとおりである。

西一本柳遺跡Ⅴ・Ⅵ 森泉かよ子

中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ、松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ 林 幸彦、写真図版 佐々木宗昭

石質鑑定は、羽毛田拓也が行った。

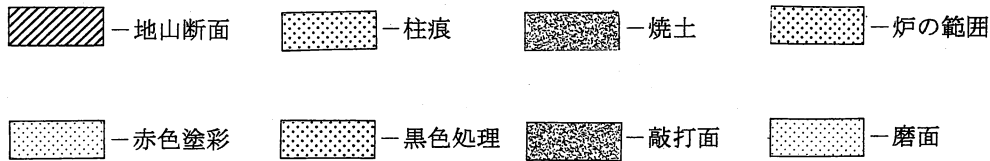
### 7. 炭化種実・樹種の鑑定は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。 陶磁器の鑑定は、長野県埋蔵文化財センター 市川隆之氏にご教授いただいた。

### 10. 出土遺物及び調査に関する記録類は、一括して佐久市教育委員会の責任下に保管されている。



## 凡 例

1. 松の木遺跡Ⅰ・Ⅱの遺構略号は、次のとおりである。  
H－竪穴住居址、F－掘立柱建物址、D－土坑、M－溝状遺構
2. 挿図の縮尺は、次のとおりである。挿図中にスケールを示した。  
竪穴住居址1/80 土坑1/60 掘立柱建物址1/80 溝状遺構1/80 土器1/4 石器1/4・1/2
3. 遺構の海拔標高は、各遺構毎に統一に努め、水系標高を記した。
4. 土層の色調は、1988年版『新版 標準土色帳』に基づいた。
5. 調査区グリッドは公共座標に従い、間隔は4×4mに設定した。
6. 挿図中のスクリーンパターンは、以下のことを示す。



## 目 次

巻頭カラー図版

例言・凡例

第Ⅰ章 西一本柳遺跡Ⅴ・Ⅵ	1
第1節 発掘調査の概要	2
第2節 遺跡の環境	4
第3節 基本層序	6
第4節 遺構と遺物	7
第5節 総括	42
付編 佐久市西一本柳遺跡Ⅴの出土人骨について	45
第Ⅱ章 中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ、松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ	
第1節 中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱの遺構	59
第2節 松の木遺跡Ⅰ・Ⅱの遺構	65
第3節 中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ、松の木遺跡Ⅰ・Ⅱの出土遺物	82
付編	
中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ、松の木遺跡Ⅰ・Ⅱの出土遺物鑑定	99

写真図版



# 第 I 章 西一本柳遺跡 V・VI

## 【西一本柳遺跡 V・VI 調査体制】

調査受託者 教育長 依田 英夫

事務局 (平成11年度より『埋蔵文化財課』から『文化財課』に変更)

教育 次長 市川 源 (平成8・9年度) 北沢 馨 (平成10年度) 小林 宏三 (平成11・12年度)

文化財課長 北沢 元平 (平成8年度) 須江 仁胤 (平成9・10年度) 草間 芳行 (平成11・12年度)

管理 係長 棚澤 慶子 (平成8・9年度)

管 理 係 田村 和広 (平成8・9年度)

文化財係長 大塚 達夫 (平成8・9年度) 荻原 一馬 (平成10・11・12年度)

文化 財係 林 幸彦 三石 宗一 (平成8・9・10年度) 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田卓也

富沢 一明 上原 学 山本 秀典 (平成11・12年度) 出澤 力 (平成11・12年度)

調査 主任 佐々木 宗昭 森泉 かよ子

調査副主任 堺 益子

調査担当者 森泉 かよ子

### 調 査 員

井上 行雄 並木ことみ 磯貝 ハナ 柏原 松枝 神津さよ子 神津登久子 佐藤けさ子 柳沢千賀子  
 花里八重子 小畑 弘子 飯沢つや子 小林 立江 茂木とよ子 林 美智子 佐藤 愛子 小金澤たけみ  
 小須田サクエ 桃井もとめ 白井おくに 中山たのし 樋沢しずい 小林 幸子 宮川百合子 小田川 栄  
 小林百合子 細谷 秀子 水間 雅義 棚澤三之助

### 凡 例

1. 遺構の略号は次の通りである。

H—竪穴住居址、F—掘立柱建物址、D—土坑、M—溝状遺構、P—ピット

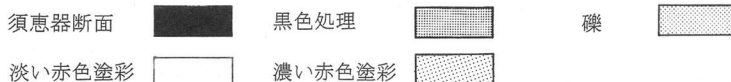
2. 遺構の縮尺は竪穴住居址・土坑—1/80、掘立柱建物址—1/80、溝状遺構—1/200、遺物—1/4を基本とし、異なる場合は図に明記してある。

3. 挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

#### 遺 構



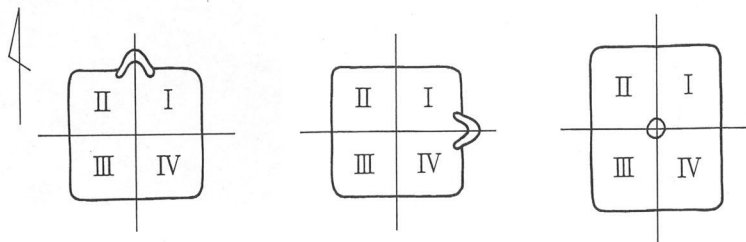
#### 遺 物



4. 遺構図の海拔標高は各遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」として示した。

6. 土層・土器の色調は、1988年『新版標準土色帖』に基づいた。

7. 調査時の住居址分割は以下の図に従っている。





## 第1節 発掘調査の概要

### 1. 発掘調査の経緯

一本柳遺跡群は、佐久市岩村田地籍に所在し、東西方向に流れる湯川右岸の台地上にある。岩村田市街地の南西1km、標高690mを測り、浅間第1軽石流が地盤をなし田切り地形が発達している地点である。一本柳遺跡群は田切り上を南西の帯状に展開し、中央から西半分を西一本柳遺跡、東半分を東一本柳遺跡、中央部北部を北一本柳遺跡と呼称している。本遺跡群内では昭和43年には東一本柳遺跡が、また昭和46年度には金銅製馬具の飾り金具などを出土した東一本柳古墳が発掘されるなど多くの調査がなされ貴重な資料を得ている。弥生時代中期から中世に至るまで連綿と人々の痕跡が残された、佐久市内でも有数な遺跡の一つである。

国道141号線工事予定地は西一本柳遺跡を南北に貫き、今回の調査区は南西に延びる台地の北端である。本遺跡の一部また台地の南に広がる集落は、平成4年の公共下水道事業に伴う西一本柳遺跡Ⅱ、また平成7・8年度の国道141号線の工事に伴う西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳが調査され、密集した古代集落が検出されている。

今回、佐久建設事務所による国道141号線の道路工事が本遺跡内において計画され、遺跡の破壊が余儀なくされる事態となり、佐久建設事務所より委託を受け佐久市埋蔵文化財課が発掘調査を実施することとなった。



### 2. 調査日誌

#### 【西一本柳遺跡Ⅴ】

(平成8年度)

- H8. 4.24 重機により耕作土を除去開始。  
午後機材を搬入する。
- 4.25 調査員現場で作業。遺構の検出。
- 5.7 F1から掘り下げを行う。
- 6.13 現状の東西道路下の調査のため重機で迂回路を作る。
- 6.23 全体清掃。
- 6.24 機材の搬出、補充作業。
- 6.29 航空測量行う。
- 7月～3月  
室内にて遺物の洗浄・注記・復元、遺構図の修正・トレース・写真整理など行う。





(平成9～12年度)

- H9. 4～H10. 3 土器の石膏復元、実測を行う。  
H10. 4～H13. 3 土器の実測・トレース・写真撮影を行い、  
報告書 の原稿執筆・編集作業を行い、  
刊行する。

### 【西一本柳遺跡VI】

(平成9年度)

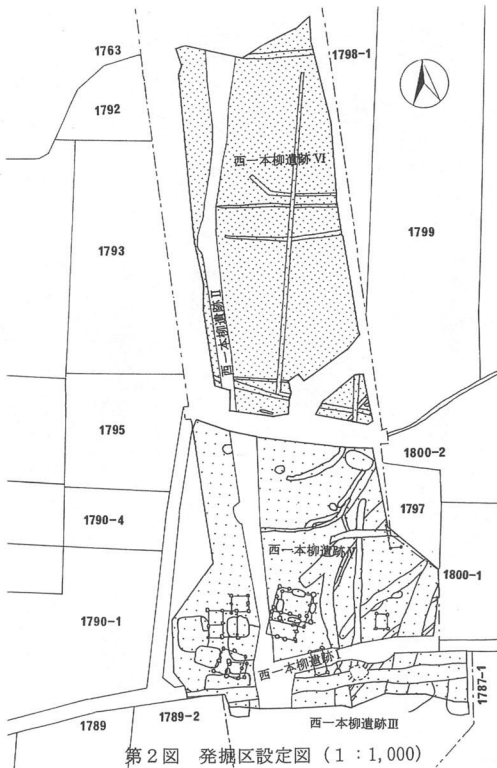
- H9. 6. 10～16 重機により表土を剥ぎ、機材を搬入し  
遺構検出をする。  
溝状遺構と単独ピットの調査

(平成9年～13年)

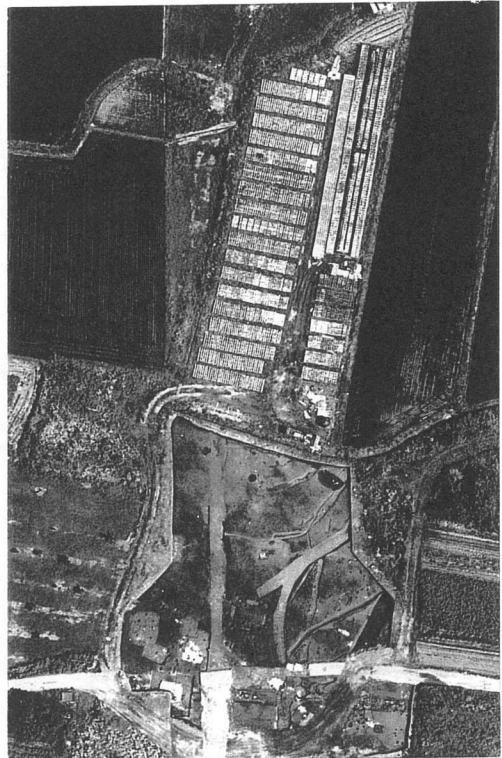
- H9. 6. 17～H12. 3 室内にて遺物の洗浄・注記・復  
元、遺構の図面修正・トレース・土器  
の実測・トレース・写真撮影、報告書  
の原稿執筆・編集作業を行い、刊行  
する。



## 3. 検出遺構・遺物の概要



第2図 発掘区設定図 (1 : 1,000)



西一本柳遺跡V・VI航空写真 (朝日航洋社撮影)

【西一本柳遺跡Ⅴ】

遺構

掘穴住居址	弥生時代 4棟 古墳時代 3棟 平安時代 1棟
掘立柱建物址	10棟
土坑	7基
溝状遺構	13本
単独ピット	95個

主な出土遺物

弥生時代中期後半土器  
磨製石鏃・磨製石鏃未製品・石皿  
古墳時代後期土器・白玉  
平安時代土器

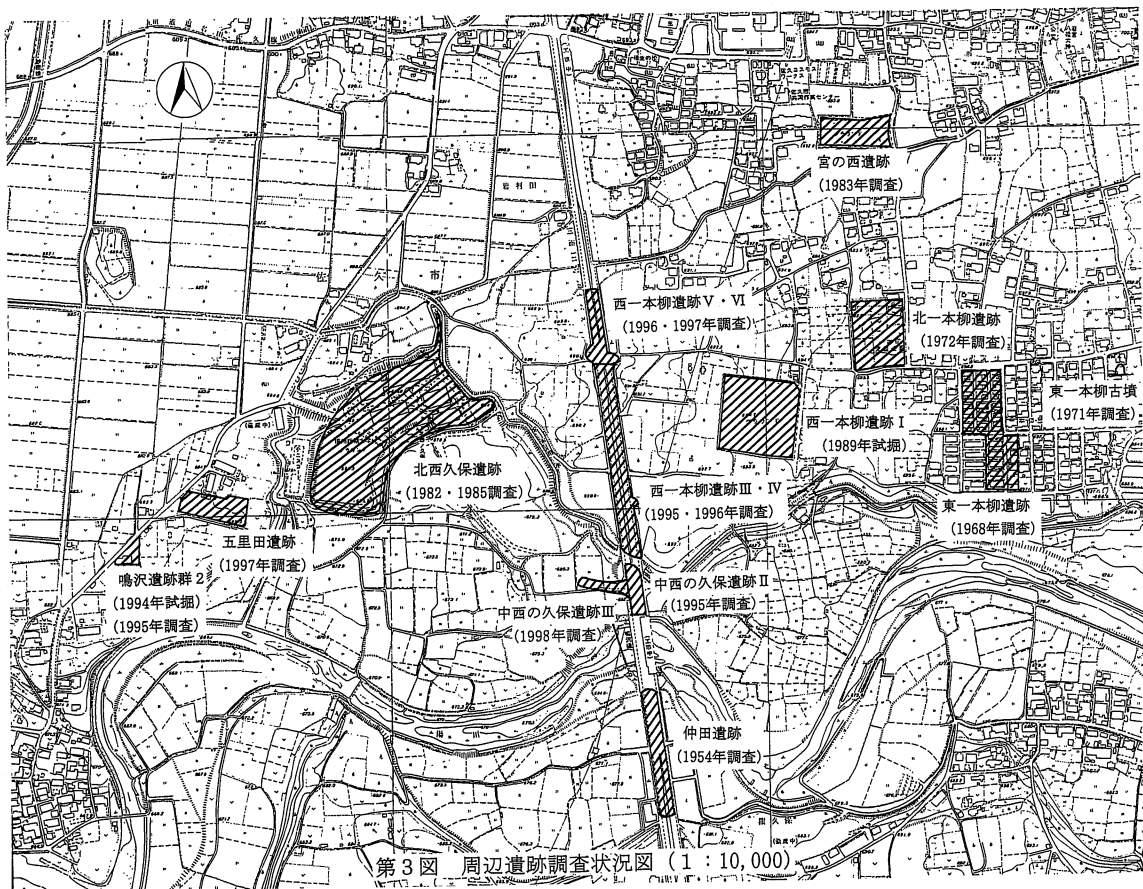
【西一本柳遺跡Ⅵ】

溝状遺構	7本
単独ピット	12個

## 第2節 遺跡の環境

一本柳遺跡群は佐久市大字岩村田地籍に所在し、湯川の右岸、岩村田市街地南部のJR小海線から西方に約1kmにわたって展開している。本遺跡群の周辺には、東方に岩村田遺跡群・上の城遺跡群等の古墳時代から中世に渡る集落がみられる。本遺跡との間には低地が存在しており、また信州短大のある西方の舌状に張り出す北西ノ久保遺跡まで含めて、本遺跡群全体が低地に囲まれた環濠集落状の台地だったようである。南は湯川を望み、北は川が流れる低地をもつ自然条件に恵まれた所であった。南側の一段下がった中西の久保遺跡群には古墳時代初頭の集落もみられる。この地域は市街地に近いため宅地化が進んでおり、昭和43年度に宅地造成に伴い東一本柳遺跡をはじめとして発掘調査が実施され、古墳時代後期の掘穴住居址5棟が検出された。ついで東一本柳古墳、北一本柳遺跡、西一本柳遺跡Ⅰ、さらに北西ノ久保遺跡の発掘調査が行われ、弥生中期～平安時代の集落や弥生～近世の墳墓等が数多く検出された。

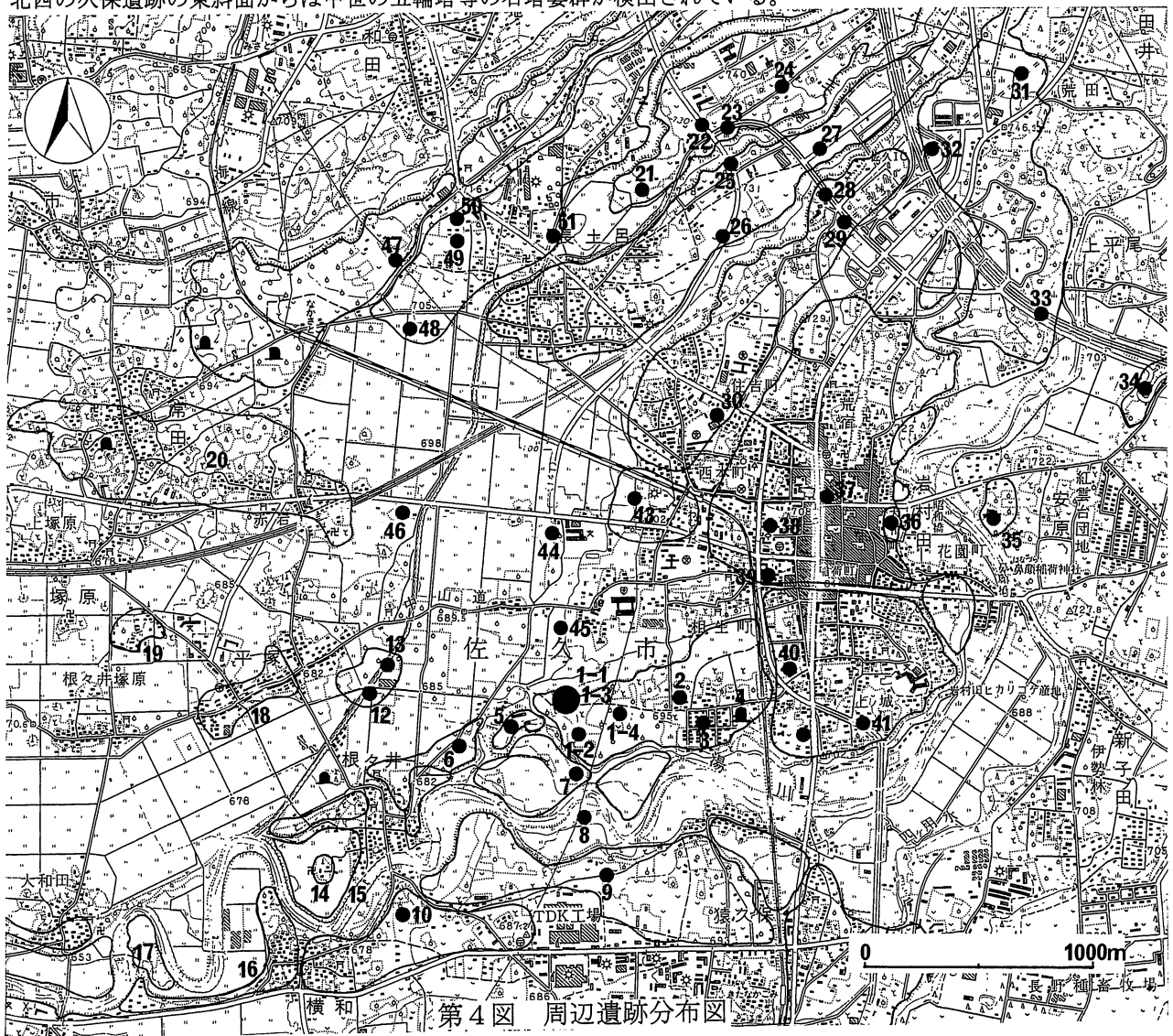
東一本柳古墳は昭和46年に調査され、金銅製の杏葉・辻金具、鉄製轡をはじめとする馬具、鉄鏃、刀装具、玉類な



第3図 周辺遺跡調査状況図 (1:10,000)



どの豊富な副葬品で知られている。北一本柳遺跡は昭和47年に、弥生時代後期の竪穴住居址7棟、平安時代の竪穴住居址10棟、土坑51基が調査された。また、平成3・4年度に発掘調査された西一本柳遺跡Ⅰ・Ⅱでは壺口縁部に弥生人の顔を造作した人面土器が出土し注目された。遺構は弥生時代中期の竪穴住居址2棟、古墳時代後期の竪穴住居址2棟、掘立柱建物址3棟が調査され、さらに試掘調査によって70棟以上の住居址が確認されている。上の城遺跡群では、昭和48年に上の城遺跡、昭和58年に西八日町遺跡の発掘調査が行われ、上の城遺跡で古墳時代後期から平安時代の住居址47棟と掘立柱建物址1棟が、西八日町遺跡で弥生時代中期から平安時代の住居址147棟などが調査されている。北西ノ久保遺跡第1次～4次の調査では、台地上から弥生時代中期・後期、古墳時代中期、平安時代の集落と弥生時代の方形周溝墓・木棺墓群、多量の埴輪が出土した古墳時代中期～後期の古墳群、近世の土壙墓群が調査され、北西の久保遺跡の東斜面からは中世の五輪塔等の石塔婆群が検出されている。



第1表 周辺遺跡一覧表

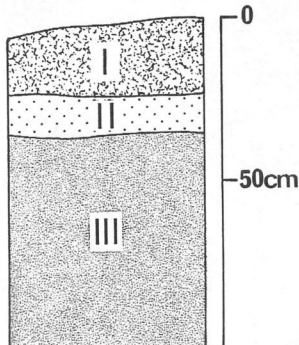
No.	遺跡名	所在地	時代	備考
1-1	一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅴ・Ⅵ	岩村田字下樋田	弥生中期、古墳中後期、平安	本報告書。
1-2	西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ	字上樋田	弥生中、古墳中・後期、平安、中世	平成7・8年度調査。
1-3	西一本柳遺跡Ⅰ	字一本柳	弥生中期（人面壺出土）	平成3・4年度調査。
1-4	西一本柳遺跡Ⅱ	字西一本柳・常木	弥生中期古墳中後期、平安、中世	平成4年度発掘調査。
2	北一本柳遺跡	字北一本柳	弥生後期、平安時代	昭和47年度発掘調査。
3	東一本柳遺跡	字東一本柳	弥生	昭和43年度発掘調査。
4	東一本柳古墳	〃	古墳	昭和46年度調査

5	西久保遺跡	〃 字北西久保	弥生中・後期、古墳中、平安、中世	昭和44・45・57・60年発掘
	西久保古墳群	〃	古墳中・後期	〃
6	鳴沢遺跡群五里田遺跡	根々井字五里田	縄文、弥生中期、古墳中期、中世	平成9年度発掘調査
7	中西久保遺跡	岩村田字中西の久保	古墳～平安	平成7年度発掘調査
8	仲田遺跡	猿久保字仲田	古墳～平安	〃
9	寺畑遺跡Ⅰ・Ⅱ	猿久保寺畑	縄文前・中世	平成6・7年度発掘調査
10	宮の上遺跡群根々井芝宮遺跡	根々井字芝宮	弥生中期・古墳後期、平安	平成4年度発掘調査
11	大和田遺跡群川原端遺跡	大和田字川原端	弥生中、古墳後期	平成8年度発掘調査
12	西一里塚遺跡群餅田遺跡	岩村田字西一里塚	弥生	昭和48年度発掘調査
13	〃 西一里塚遺跡	岩村田字塚向	弥生	昭和48年度発掘調査

14. 根々井館跡、15. 根々井居屋敷遺跡、16. 寄塚遺跡群、17. 北久保遺跡、18. 塚原屋敷添遺跡、19. 宮の前遺跡、20. 前田遺跡群、21. 高山遺跡、22. 上高山遺跡、23. 南上中原・南下中原、24. 上芝宮遺跡、25. 上大林遺跡、26. 下聖端遺跡、27. 聖原遺跡、28. 曾根新城遺跡、29. 上久保田向遺跡、30. 上直路遺跡、31. 前籙部遺跡、32. 栗毛坂C遺跡、33. 栗毛坂B遺跡、34. 腰巻遺跡、35. 下小平遺跡、36. 大井城跡、37. 中宿遺跡、38. 内西浦遺跡、39. 柳堂遺跡、40. 観音堂遺跡、41. 上の城遺跡、42. 西八日町遺跡、43. 清水田遺跡、44. 松ノ木遺跡、45. 中長塚遺跡、46. 濁り遺跡、47. 森下遺跡、48. 周防畑B・C遺跡、49. 若宮遺跡、50. 南近津遺跡、51. 周防畑A遺跡

### 第3節 基本層序

一本柳遺跡群は、佐久市の北部中央に位置し、湯川右岸の河岸段丘上に展開している。標高は689～700mを測り、西方に向かって緩やかに傾斜している。今回発掘調査を行った西一本柳遺跡Ⅴ・Ⅵは台地の北西端にあたり、南から北に傾斜し標高差は1mある。

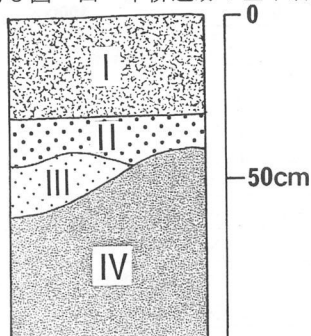


第5図 西一本柳遺跡Ⅴ基本層序模式図



#### 【西一本柳Ⅴ】

- 第Ⅰ層 黒褐色土層 (10YR2/2)  
耕作土。
- 第Ⅱ層 褐色土層 (10YR4/4)  
漸移層。
- 第Ⅲ層 褐色土層 (10YR4/6)  
浅間第Ⅰ軽石流。  
標高の高い地点は二次堆積砂質層あり。



第6図 西一本柳遺跡Ⅵ基本層序模式図



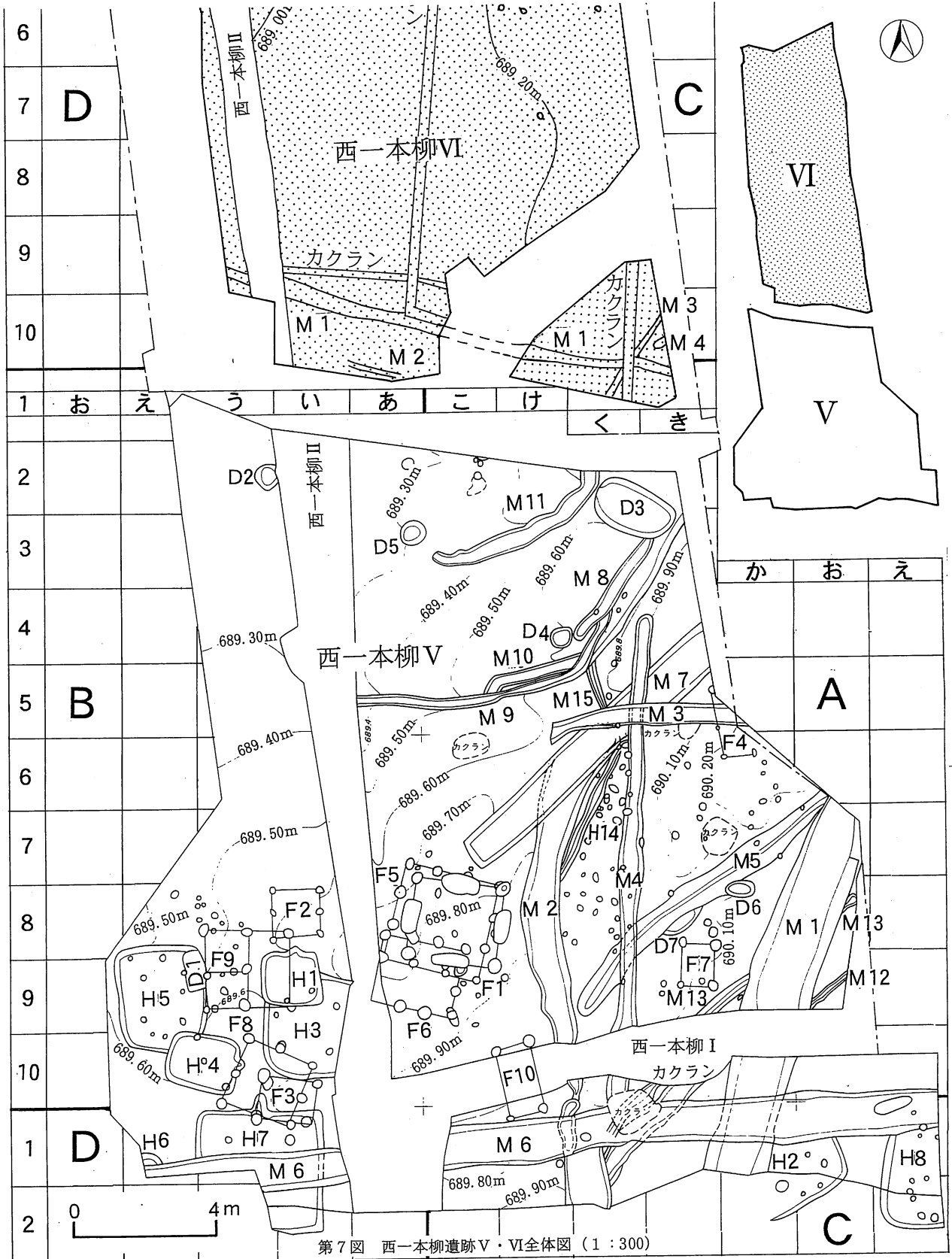
#### 【西一本柳Ⅵ】

- 第Ⅰ層 黒褐色土 (10YR3/1)  
耕作土
- 第Ⅱ層 黒褐色土 (10YR2/2)
- 第Ⅲ層 褐灰色土 (10YR5/1)  
粘質土。
- 第Ⅳ層 褐色土 (10YR4/6)  
浅間第Ⅰ軽石流。



# 第IV節 遺構と遺物

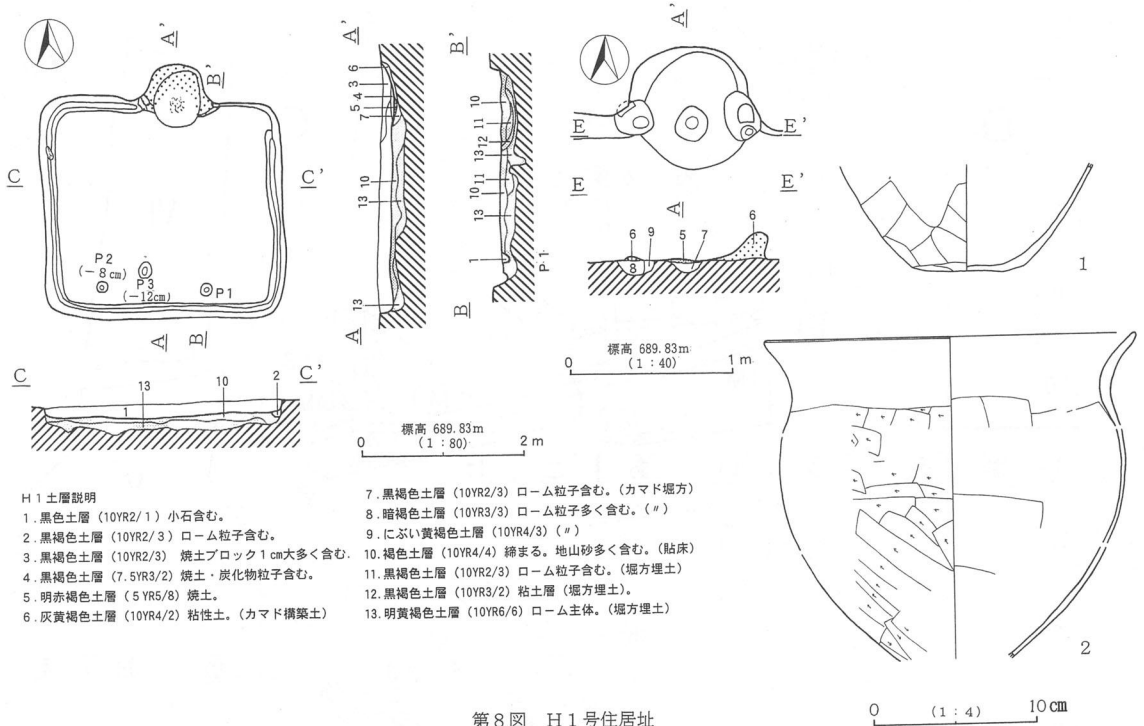
## 1. 西一本柳遺跡V



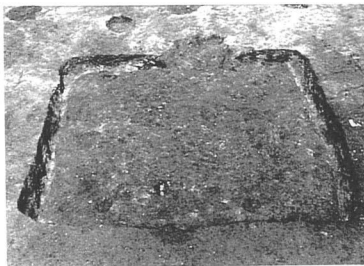
第7図 西一本柳遺跡V・VI全体図 (1:300)

(1). 竪穴住居址

1) H1号住居址



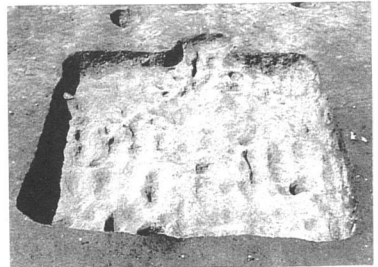
第8図 H1号住居址



H1号住居址(南より)



H1号住居址カマド堀方(南より)



H1号住居址堀方(南より)

【H1号住居址】

規模 (南北×東西×深さ) 240cm×260cm×6~20cm

形態 方形

竈の位置 北壁中央。袖基部が残り、粘土で構築。カマド奥壁は住居址北壁から出張る。

竈軸方位 N-1°-E

残存状態 床面は地山の砂質ロームブロックを含む土で貼り床され、良く締まる。北側床面は弧状に粘土を貼る。

柱穴 主柱穴は検出されていない。南壁下に小ピットが3個検出されている。

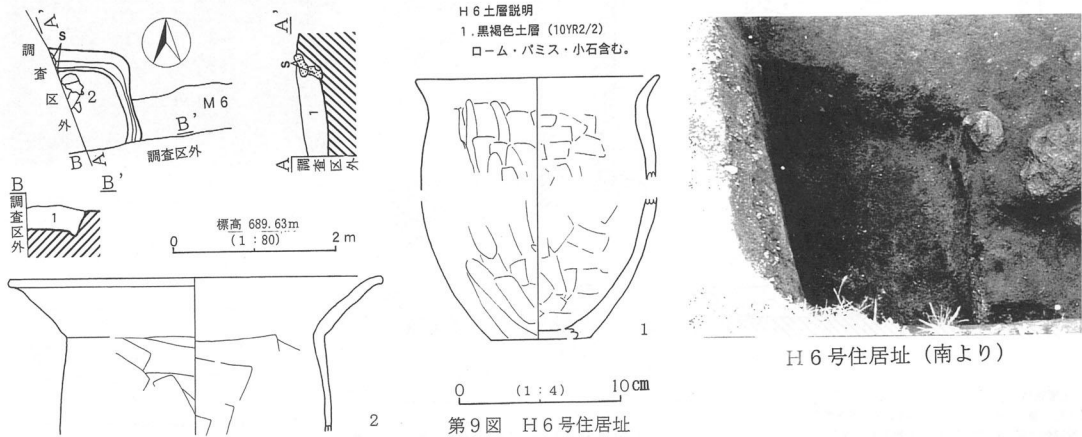
出土遺物 武蔵甕・内面黒色ミガキ処理杯・須恵器瓶の破片280g、弥生土器1220g、古墳時代土器60g

1・2は土師器甕の底部である。外面・底部はヘラケズリされ、薄い器肉の武蔵甕である。

時期 奈良~平安。



## 2) H 6 号住居址



### 【H 6 号住居址】

規模 (南北×東西×深さ) ーcm×ーcm×30cm

形態 ー

竈の位置 検出されない。

残存状態 北東隅のみ調査。床面は軟弱であった。

出土遺物 1は口縁部が短く外反し、胴部をヘラケズリする小型の甕である。2は口縁部が「く」の字状に大きく外反する武蔵型甕。胴部の器肉が薄く、外面上部が横方向にヘラケズリされる。

破片では長胴甕・内面黒色ミガキ処理杯・須恵器大甕1660g、弥生式土器120gがある。

時期 古墳時代後期。

## 3) H 4 号住居址

### 【H 4 号住居址】

規模 (南北×東西×深さ) 270cm×346cm×32~40cm

形態 長方形

竈の位置 東壁北寄り。天井部が押され潰れてはいるが、痕跡を残し、袖基部と煙道が残る。袖は地山を掘り残して袖芯にし、袖先に石を立て、粘土を貼り構築している。

竈軸方位 N-115°-E

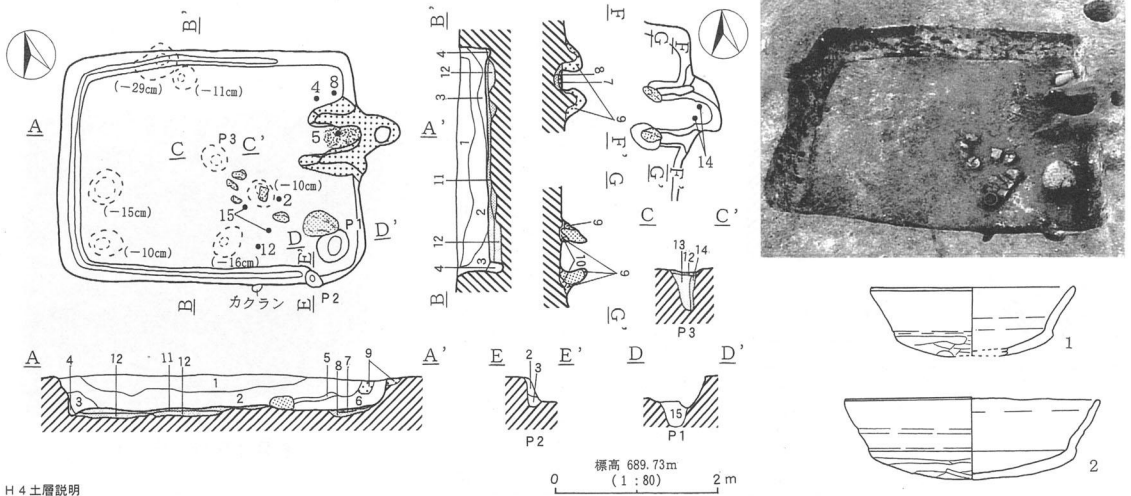
残存状態 土器が南東に多く残る。床面は地山の砂質ロームブロックを含む土で貼り床され、良く締まる。

柱 穴 主柱穴はない。P2は南壁東の壁中にある。P3は中央堀方で検出。深さ50cmを測り、柱痕を持つ。上面は床層が貼ってあった。

他の遺構 P1は南東隅に径40cmの深さ32cmの円形穴、横に台石あり。周溝はカマド付近にはないが、廻る。

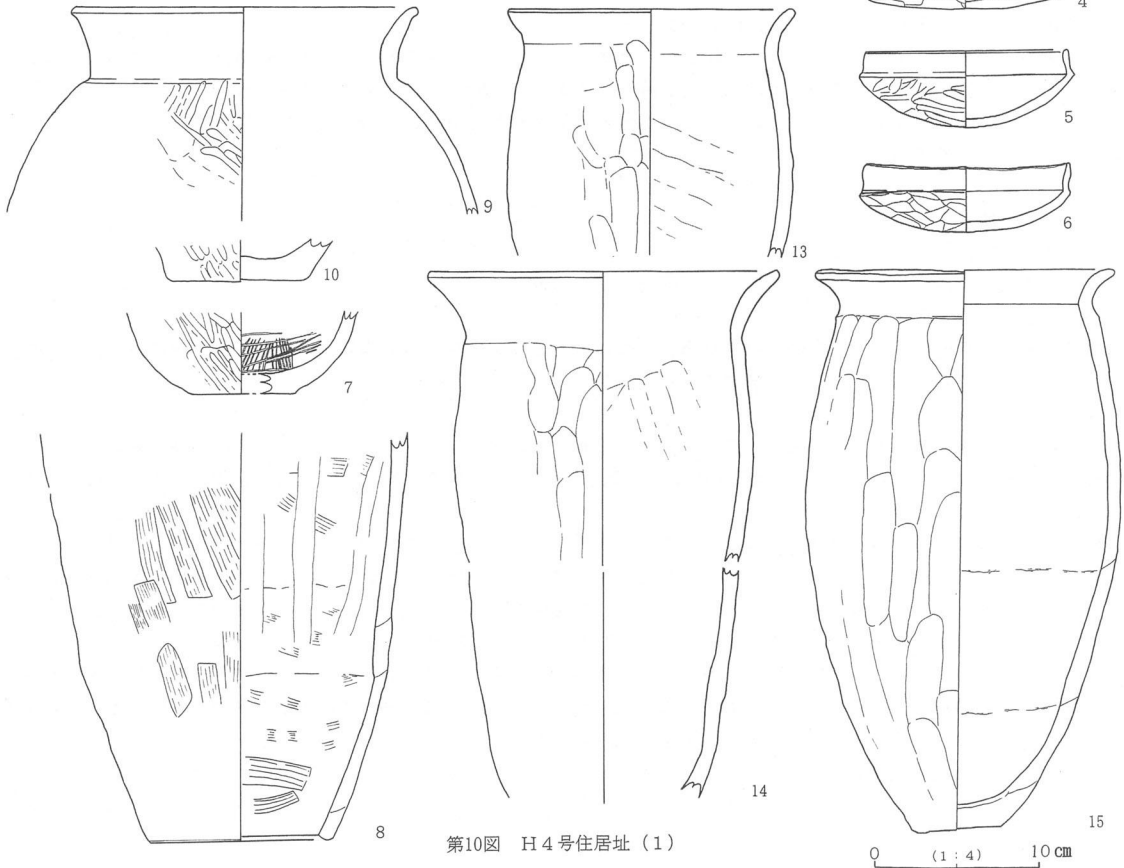
出土遺物 実測個体は土師器杯6・鉢1・甌2・丸胴甕1・長胴甕3・小甕1である。土師器杯は須恵器杯蓋模倣の1~3、同じく黒色土器の4があり、杯身模倣の5・6がある。8はハケ目のある単孔の甌、9は丸胴甕、7・11・12は鉢、13~15は長胴甕である。最大径を胴部に持つものと口縁に持つもの両者がある。胴部はいずれも縦方向のヘラケズリが施される。弥生時代の混入品として、16~18は片岩の磨製石鏃未製品、剥片。19はガラス質黒色安山岩の剥片、また図版には側面に剥離痕を持つ破片がある。土器破片では古墳時代土器片910g、弥生時代土器片1800gがある。

時期 古墳時代後期。



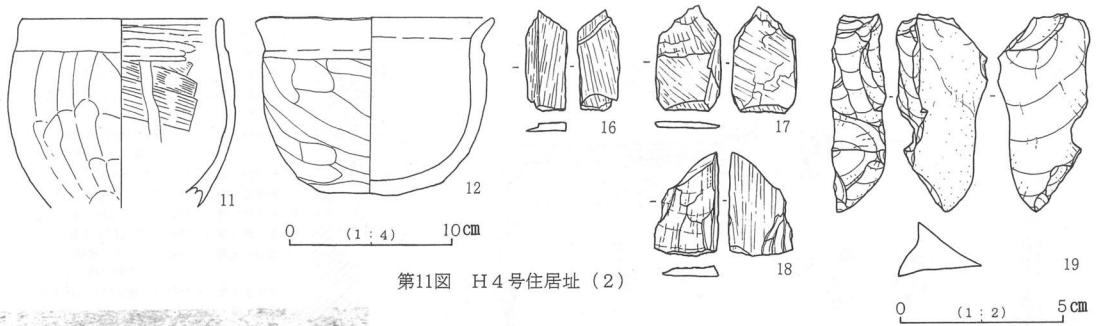
H4 土層説明

1. 黒色土層 (10YR2/1) ローム粒子・バミス含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子多く含む。
3. 黒色土層 (10YR1.7/1) ローム粒子・バミス含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・バミス含む。
5. 暗褐色土層 (10YR3/3) 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 粘土を多量に含む。
6. 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 焼土粒子を含む。
7. 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 焼土ブロック・炭化物粒子・灰を含む。
8. 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) 焼けている。
9. 暗褐色土層 (7.5YR3/4) カマド構築粘土。内側は焼けて赤変。
10. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム粒子に黒色土含む。
11. 暗褐色土層 (10YR3/3) 締まる。ロームと暗褐色土混在。(粘床)
12. 黄褐色土層 (10YR5/6) ローム主体。(堀方埋土)
13. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) (柱痕)
14. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子多量に含む。
15. 暗褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子多く含む。

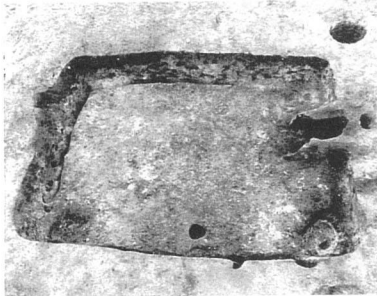


第10図 H4号住居址(1)

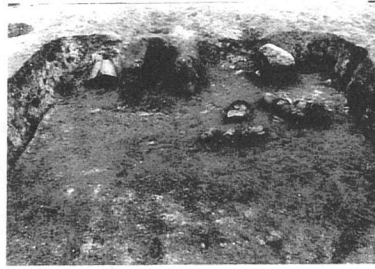




第11図 H4号住居址(2)



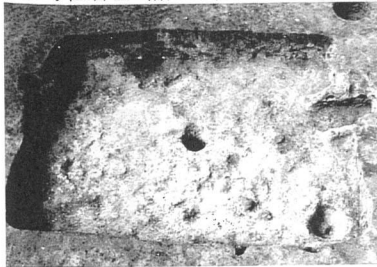
H4号住居址(南より)



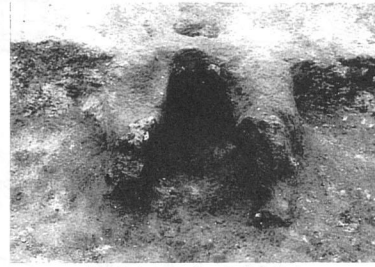
H4号住居址(西より)



H4号住居址(西より)



H4号住居址堀方(南より)



H4号住居址カマド(西より)



H4号住居址カマド堀方(西より)

#### 4) H7号住居址

##### 【H7号住居址】

規模・形態 (南北×東西×深さ) 640cm×640cm×20~30cm・方形

竈の位置 北壁中央。天井部崩壊し、F3により片袖も壊される。煙道が壁より1m長く延びる。袖は地山を残し芯にし、袖先に石を立て、粘土で構築している。右袖脇には甕を置いているが、基部に焼け石を組み、置台を作り、甕をカマドに密着させている。カマドの熱利用である。左脇にも台が作られている。

竈軸方位 N-0°

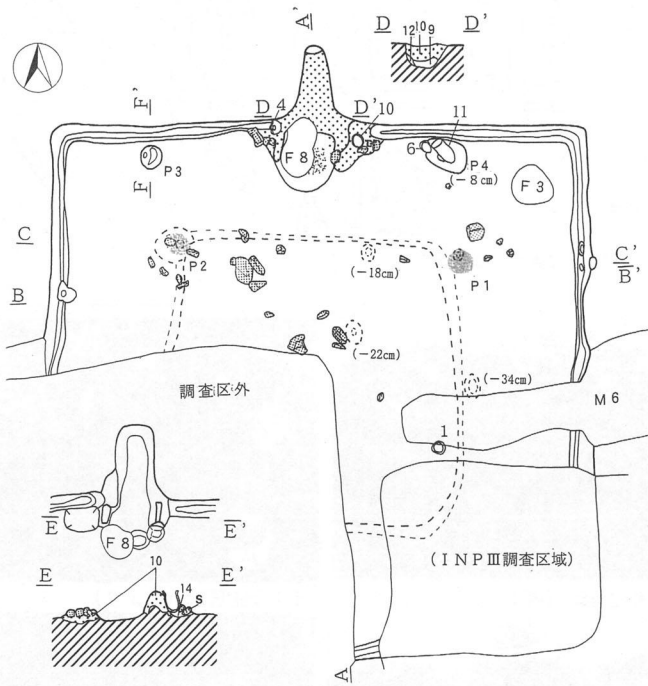
残存状態 南西は調査区域外、南東はINPⅢ次調査済み。F3・F8に切られる。床面は地山の砂質ロームブロックを含む土で貼り床され、良く締まる。

柱穴 主柱穴の配置は壁から1.6m内側で、柱間3.44mと規則的である。主柱穴は柱痕のみで掘り方がなく、幅広い周溝状の落ち込み(幅160~176cm深さ30cm)に直接埋め込まれる。

他の施設 カマドの東に長径50cm深さ8cmの浅い楕円形の穴があり、鉢と甕がおかれていた。周溝あり。

出土遺物 土師器杯3・鉢4・長胴甕3・手捏1、滑石製白玉2、砥石(凝灰岩)、編物石14点(図版に掲載)。弥生時代の片岩製磨製石鏃未製品または剥片7、黒耀石の剥片2がある。1は須恵器蓋模倣杯、2・3の杯は浅く小さい底部から口縁部が大きく外反し内外に稜を持つ。口縁部と内面はミガキ、底部外面はヘラケズリである。4・5・8は鉢、6の黒色土器も鉢。10・11は長胴甕で、胴部と口縁に最大径を持つ両者がある。胴部は縦方向のヘラケズリ。土器破片は甕・高坏・丸胴甕片含めて1050g、弥生土器1700g。

時期 古墳時代後期。



調査区外

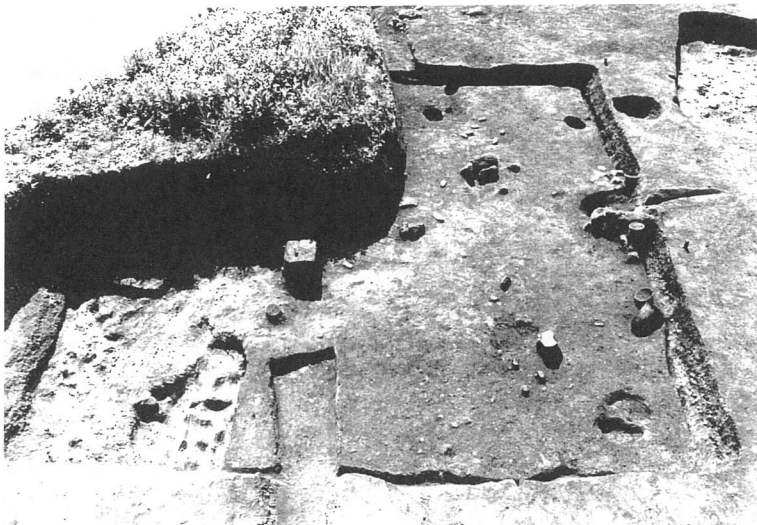
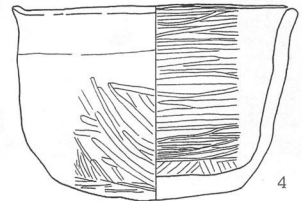
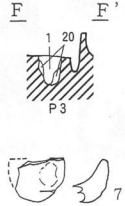
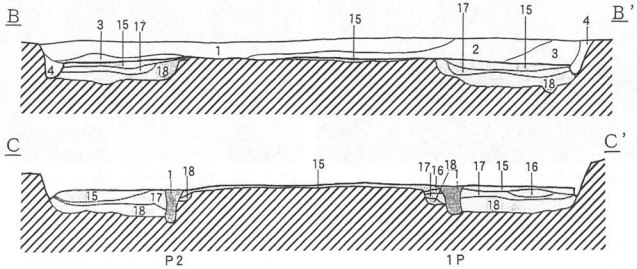
(INPⅢ調査区域)



H7土層説明

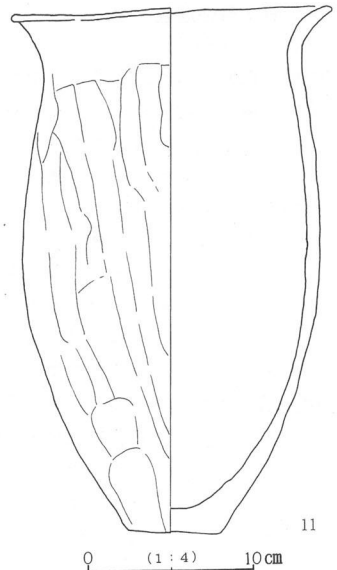
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・パミス含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・パミス含む。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子多く含む。
4. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒子多く含む。
5. 明褐色土層 (7.5YR5/8)・黒褐色土層 (7.5YR3/1) 焼土・炭化物・灰を含む。
6. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・パミス含む。
7. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。
8. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子多く含む。
9. 暗褐色土層 (10YR3/3) 焼土粒子多量に含む。
10. 暗褐色土層 (7.5YR3/3) カマド構築粘土。内側は焼ける。
11. 明褐色土層 (7.5YR5/6) 焼土粒子・灰主体。
12. 褐色土層 (7.5YR4/4) ローム主体。焼ける。
13. 赤褐色土層 (5YR4/8) 焼土。
14. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒子多く含む。(カマド堀方)
15. 黒褐色土 (10YR2/3)・黄褐色土 (10YR5/8) 混在層よく締まる。(貼床)
16. 褐色土層 (10YR4/6) ローム主体。(堀方)
17. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・パミス含む。(n)
18. 褐色土層 (10YR4/6) ローム主体。(n)
19. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・パミス含む。(n)
20. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子多く含む。(P3)

標高 689.73m  
(1:80) 2m



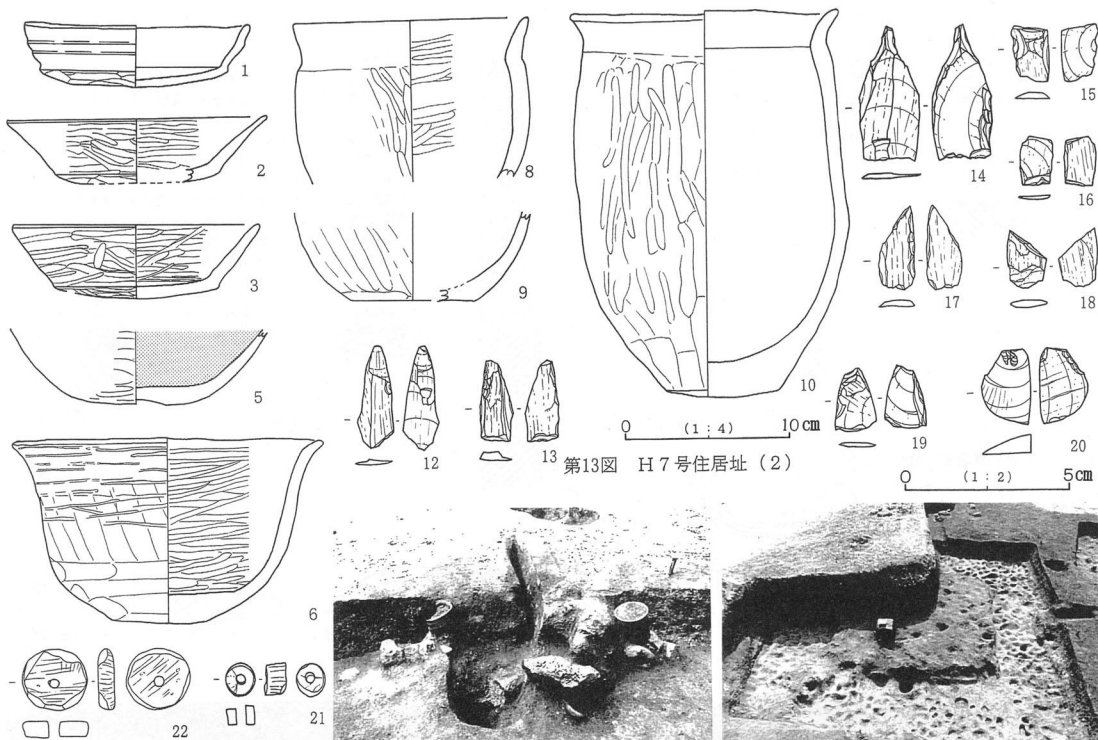
H7号住居址 (東より)

第12図 H7号住居址 (1)



0 (1:4) 10cm





第13図 H7号住居址(2)



H7号住居址カマド(南より)



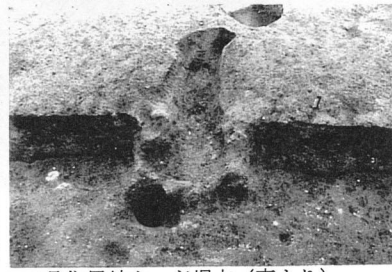
H7号住居址堀方(東より)



H7号住居址編物石出土状況



H7号住居址カマドと甕(南より)

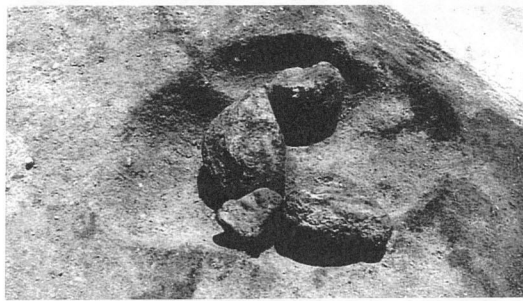
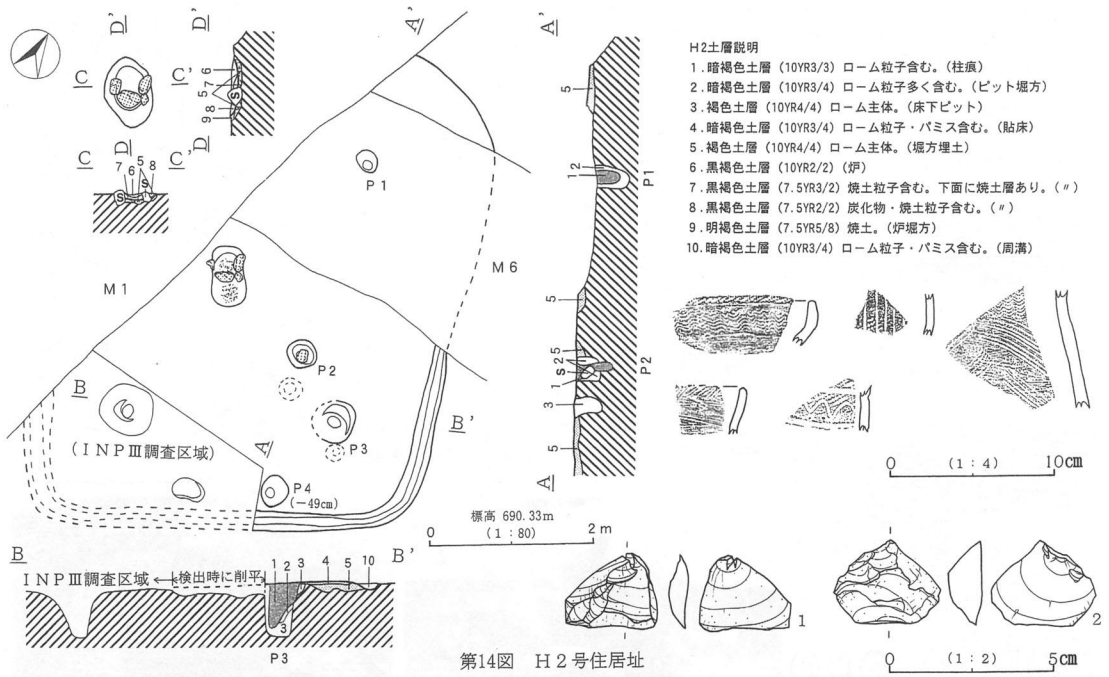


H7号住居址カマド堀方(南より)

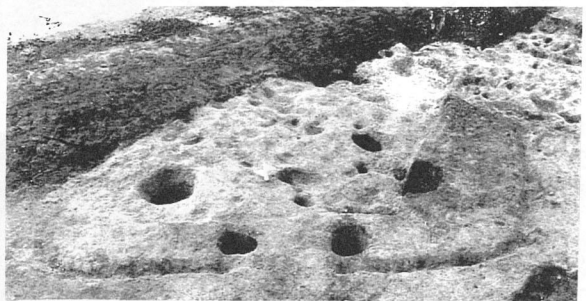
5) H2号住居址

【H2号住居址】

- 規模・形態 (南北×東西×深さ) 580cm×500cm×0cm・隅丸長方形
- 炉の位置 床中央。76cm×42cmの隅丸長方形の中に安山岩の川原石4個でコの字石囲い。焼土多く残る。
- 長軸方位 N-32° -W
- 残存状態 重機で遺構検出時に床面の一部を削平し、M1・M2により大半が破壊されたため、住居址の形態・規模ともに不明確である。南西区はINPⅢ次に調査済。
- 柱 穴 主柱穴P1~P3、他に出入りロピット2、床下ピット2
- 出土遺物 黒耀石剥片2。弥生式土器甕・壺・赤色塗彩杯破片465g
- その他 道路下のため2回に分けて掘る。
- 時期 弥生中期後半

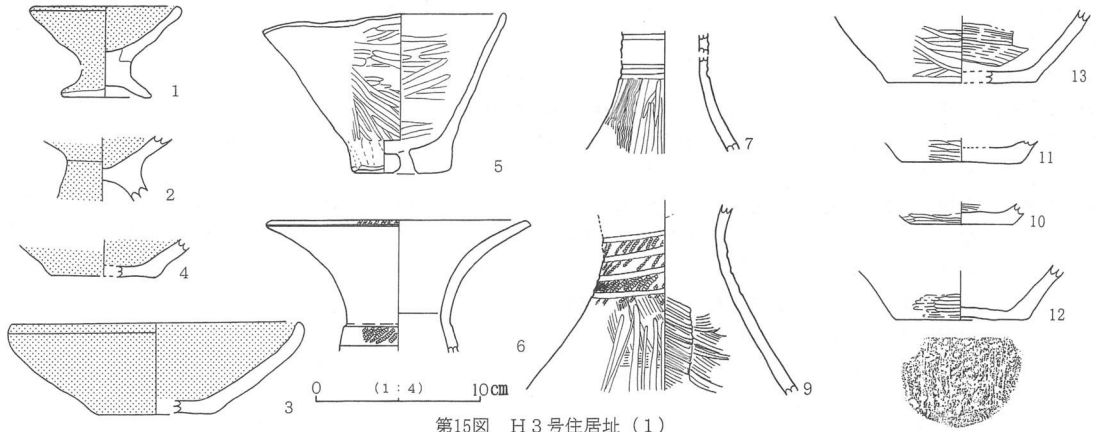


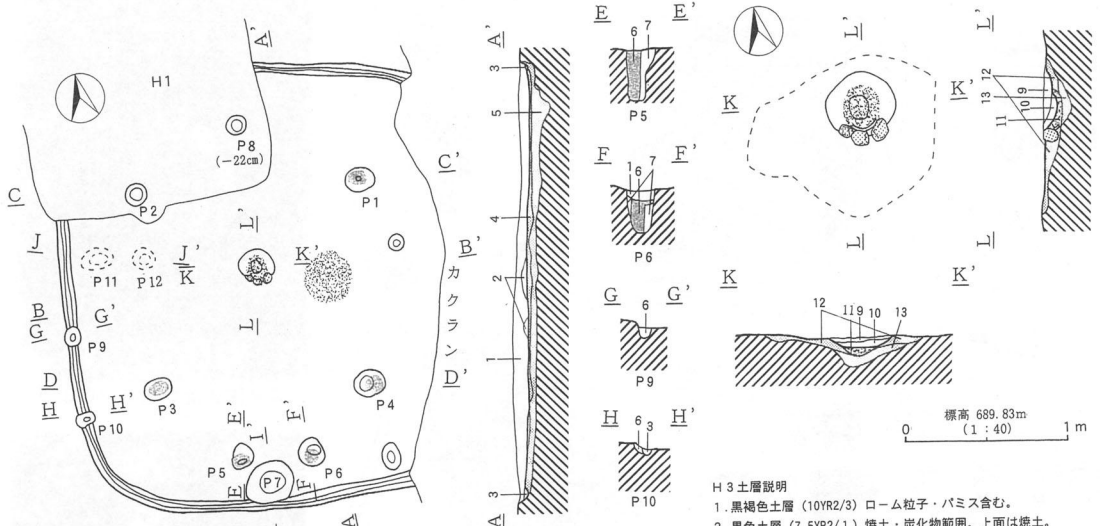
H2号住居址炉(東より)



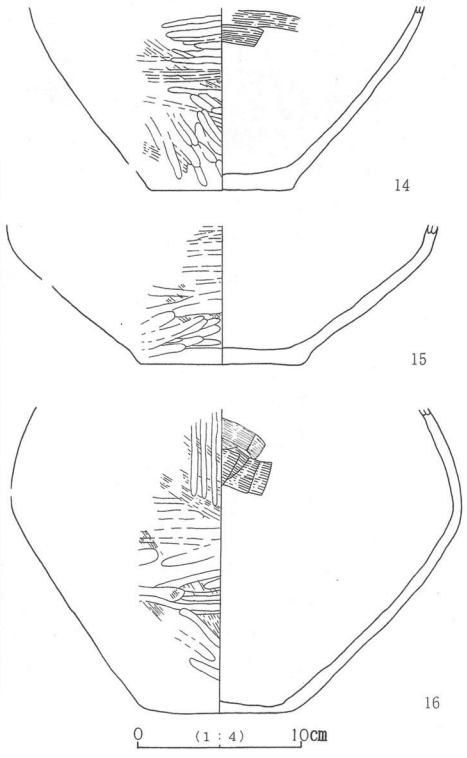
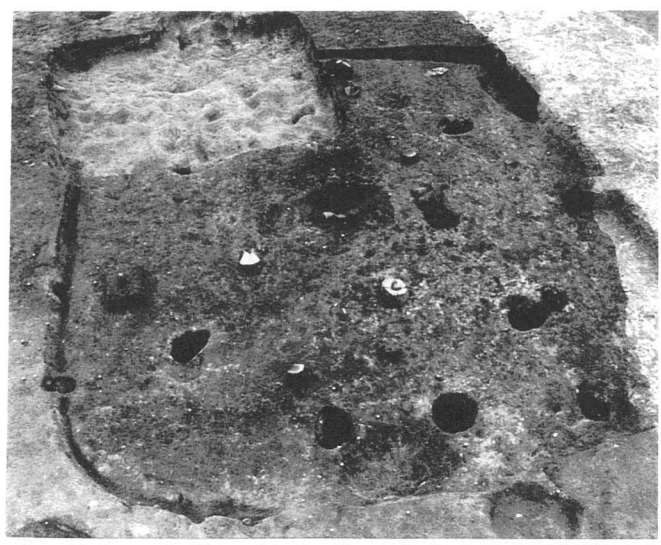
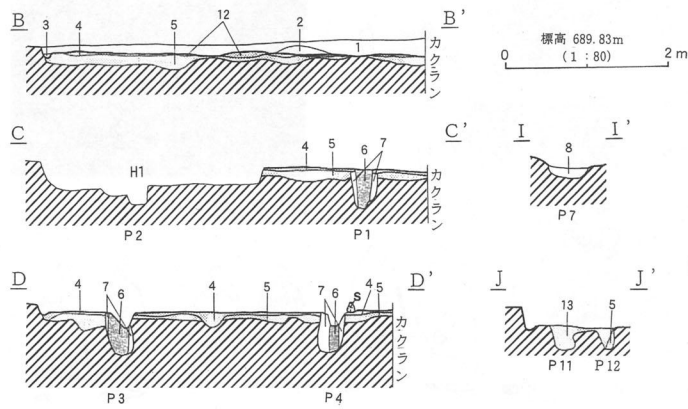
H2号住居址堀方(南より)

6) H3号住居址





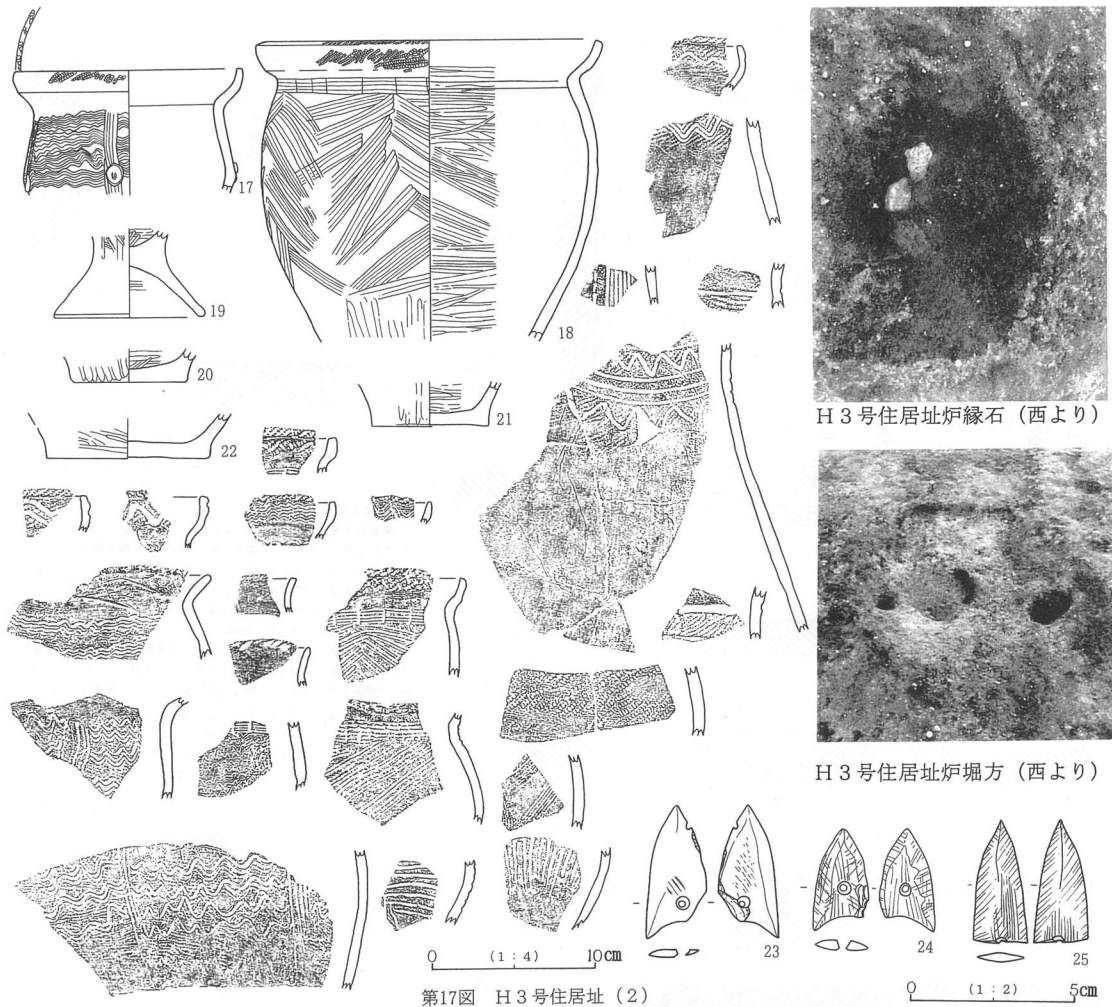
- H 3 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・バミス含む。
  2. 黒色土層 (7.5YR2/1) 焼土・炭化物範囲。上面は焼土。
  3. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子含む。
  4. 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームブロック・暗褐色土混在層。
  5. 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。(堀方埋土)
  6. 黒褐色土層 (10YR2/3) (柱痕)
  7. 黒褐色土層 (10YR3/2) ロームブロック多量に含む。(ピット堀方)
  8. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・バミス含む。(P 7)
  9. 暗褐色土層 (10YR3/4) 焼土粒子・焼土ブロック多量に含む。(炉)
  10. 黒褐色土層 (10YR3/2) 焼土・炭化物粒子多量に含む。(炉)
  11. 褐色土層 (7.5YR4/6) 焼土。(炉)
  12. 黒褐色土層 (10YR2/3) 焼土粒子含む。(炉堀方)
  13. 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。(炉堀方)



H 3 号住居址 (南より)

第16図 H 3 号住居址 (3)





第17図 H3号住居址(2)

【H3号住居址】

規模・形態 (南北×東西×深さ) 530cm×(480)cm×8~16cm・隅丸長方形

炉の位置 中央。径44cmの円形。炉内に甕胴部片の丸味を利用して炉縁とし、一辺10cm大の小石3個を並べ炉縁石としている。東側床には焼土と炭化物層あり。

長軸方位 N-5°-E

残存状態 北西でH1(奈良~平安時代)に切られ、東壁はINPⅡの調査時に破壊される。床面は締まっていた。

柱 穴 主柱穴P1~P4、長径40cm、柱痕径24cmの太いものである。出入りロピットP5・6、棟持ち柱P8、壁柱穴2、床下ピット2

他の遺構 南壁下に長径64cm深さ24cmの穴あり。

出土遺物 赤色塗彩高杯2・鉢2、甕1、壺11、甕6、磨製石鎌3がある。復元できない破片1740g。

土器は2次に火熱をうけており、壺なども赤褐色を呈している。1は小形、2は大形の高杯で、杯部内外面、脚外面は赤色塗彩ミガキ調整である。3・4はやはり赤色塗彩ミガキが施された鉢である。5は底部に一孔の穴が開いており内外面ミガキが施される甕。壺は全器形の明らかなものではなく、赤色塗彩されず無彩である。6は細頸の壺で口縁が外反して外方にのびる。口縁端部、頸部に縄文を転がし、沈線を横帯させている。9も同様である。9の壺の割れた端部は整った円形を呈し、器台として2次利用された可能性もある。17の甕は受け口状の小形の甕で、口唇部口縁外面に縄文を転がし、胴上部に櫛描波状文と縦方向の櫛描文で区切っている。18は大形の甕で、頸部に櫛描廉状文、胴部に櫛描斜条痕を

綾杉状に施している。磨製石鎌は51・52が片岩製、53は長く黒色安山岩製である。またガラス質黒色安山岩製の剥片で、両側辺に剥離のある剥片がある（図版掲載）。

時期 弥生中期後半

## 7) H5号住居址

### 【H5号住居址】

規模・形態 (南北×東西×深さ) 534cm×460cm×6~16cm・隅丸長方形

炉の位置 中央。長径80cmの楕円形。南側に長さ28cm幅8.5cm厚さ12cmの安山岩の炉縁石が置かれ、炉は焼けている。

長軸方位 N-0°

残存状態 北東でD1に切られ、南東ではH4に壊される。床面は堅く締まる。南のP8付近は高くなっている。

柱穴 主柱穴P1~P4(長径28~60cm柱痕径24~30cm、出入りロピットP8・P9、棟持ち柱P6、壁柱穴P10、床下ピットP7・P11)

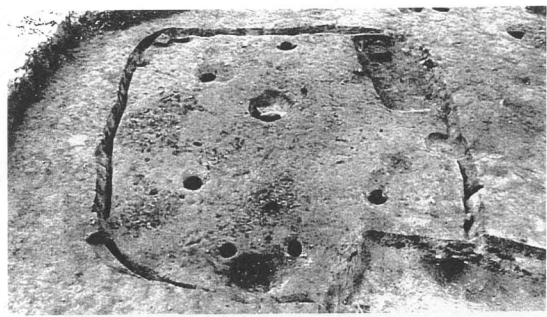
その他 南壁下中央P5(径52、深さ28cm)。

出土遺物 赤色塗彩高杯1・杯1、鉢1、壺8、甕4。土器破片1740g。55~57は片岩製磨製石鎌未製品3、54は片岩製剥片1、58は両面ミガキのあるガラス質黒色安山岩製剥片1、磨石、砥石(砂岩)。1は杯が高杯で、内外面赤色塗彩ミガキ調整。口縁が折れて縁をなし、4カ所に三角の突起を付けている。2は鉢で赤色塗彩ミガキ調整、突起が外面4カ所、2小孔開く。3は赤色塗彩ミガキ調整の高杯か。直線的な口縁で、深い。壺はいずれも無彩であり、口縁部形態は単純に外に伸びるもので、受け口状のものはない。4は直口の壺でやや外反気味である。6~9は口唇部・頸部に縄文転がし、頸部にヘラ描きによる横線。5は頸部に櫛描廉状文、ヘラ描波状文が横走する。甕は12の口縁が外反するもの、15の受け口状のもの、13の小形台付甕、17の甕胴下部のみであるがかなりの大型品がある。ガラス質黒色安山岩剥片に剥離を側辺に施したのもある(図版掲載)。

時期 弥生中期後半



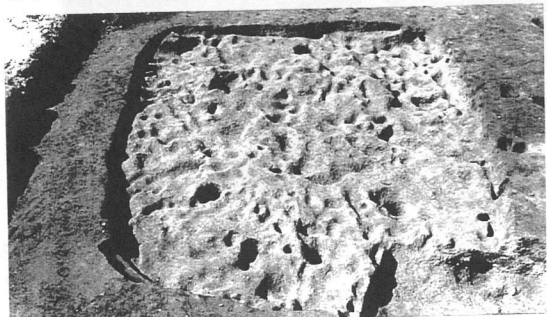
H5号住居址遺物出土状況(南より)



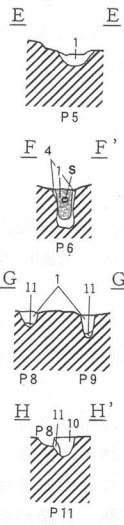
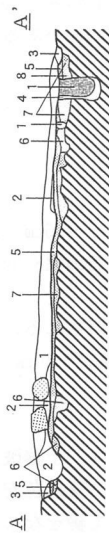
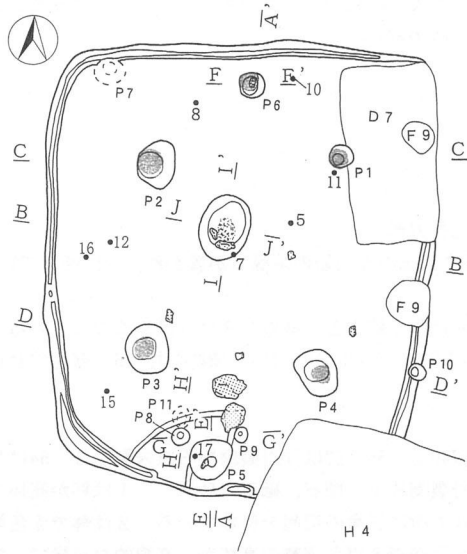
H5号住居址(南より)



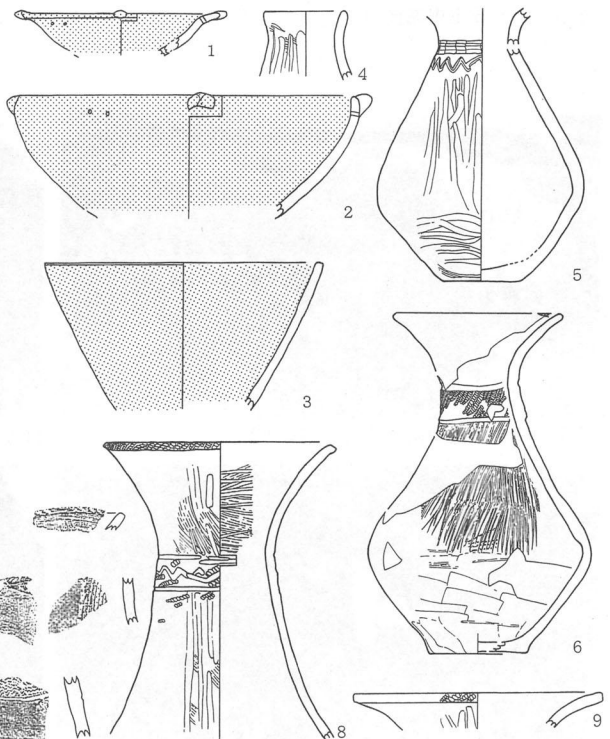
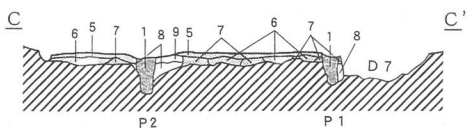
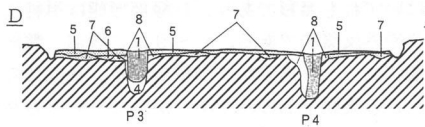
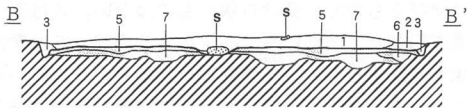
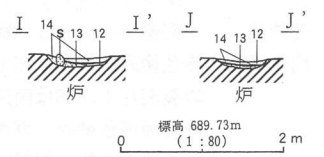
H5号住居址炉(東より)



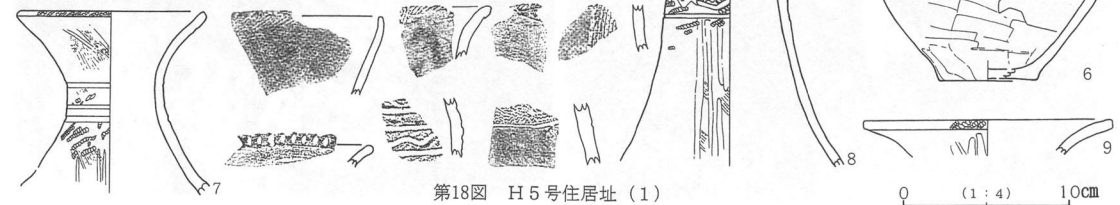
H5号住居址掘方(南より)



- H 5 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・パミス含む。
  2. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・パミス含む。
  3. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) ローム粒子多量に含む。
  4. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子含む。
  5. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロック混在。よく締まる。(粘床)
  6. 褐色土層 (10YR4/4) ローム粒子含む。(堀方)
  7. 黄褐色土層 (10YR5/8) ローム主体。(堀方)
  8. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒子含む。(ピット堀方)
  9. 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。(ピット堀方)
  10. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。(P11)
  11. 褐色土層 (10YR4/6) ローム主体。(P11)
  12. 黒褐色土層 (10YR2/2) 炭化物粒子含む。(炉)
  13. 黒褐色土層 (10YR3/2) 焼土粒子多く含む。(炉)
  14. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。(炉)



H 5 号住居址 (南より)



第18図 H 5 号住居址 (1)

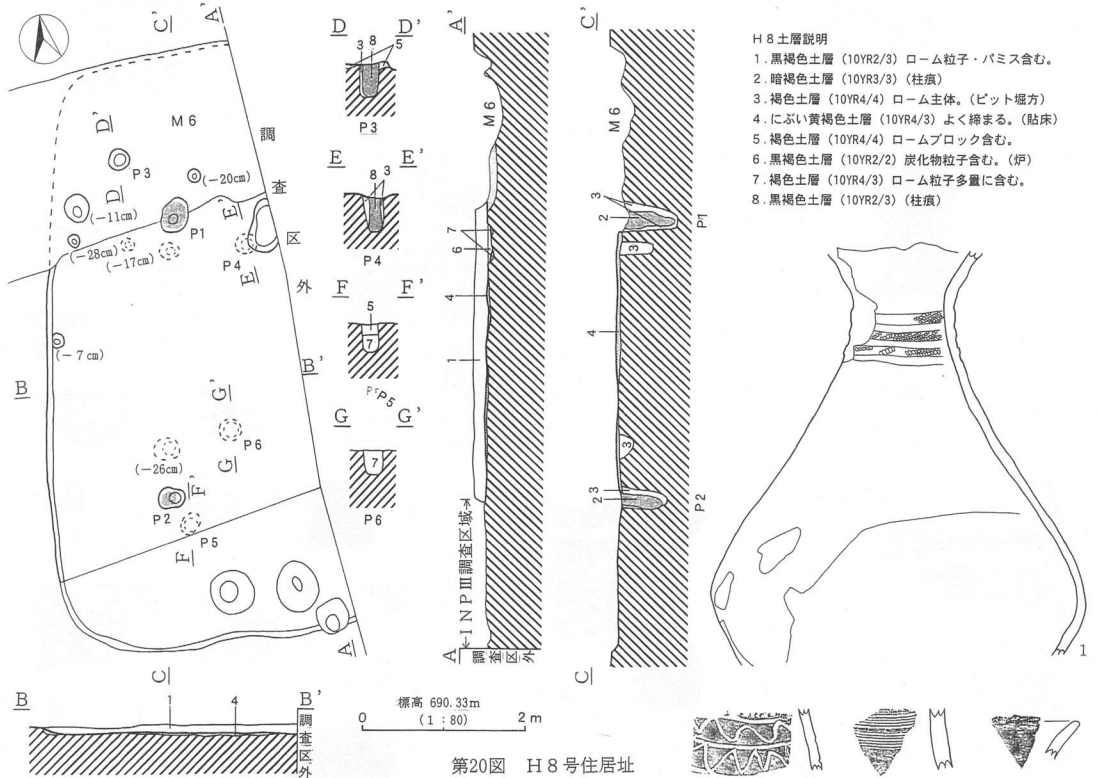






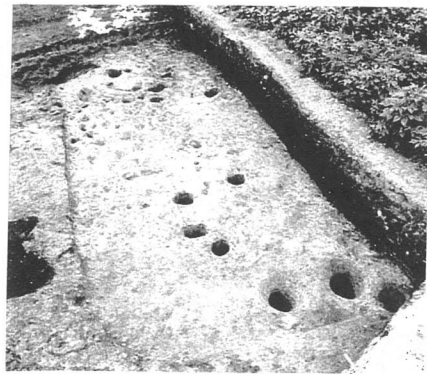
第19图 H5号住居址(2)

8) H 8号住居址

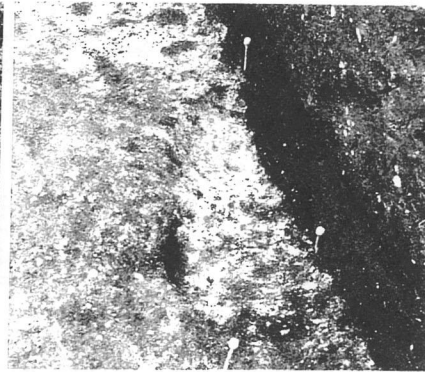


H 8土層説明

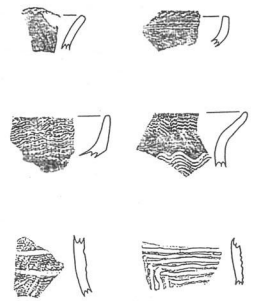
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・パミス含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/3) (柱痕)
3. 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。(ビット塚方)
4. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) よく締まる。(貼床)
5. 褐色土層 (10YR4/4) ロームブロック含む。
6. 黒褐色土層 (10YR2/2) 炭化物粒子含む。(炉)
7. 褐色土層 (10YR4/3) ローム粒子多量に含む。
8. 黒褐色土層 (10YR2/3) (柱痕)



H 8号住居址 (南西より)



H 8号住居址炉 (南より)



0 (1:4) 10cm

【H 8号住居址】

規模・形態 (南北×東西×深さ) (700cm) × (260cm) × 8~16cm・隅丸長方形

炉の位置 北側柱穴の間。長径64cmの楕円形掘り込み、わずかに焼土があった。

長軸方位 N-10° -E

残存状態 北でM6に切られ、東半分は調査区域外のため住居址の形態・規模はやや不明確である。南側はINPⅢ調査時に調査済。床面は締まっていた。

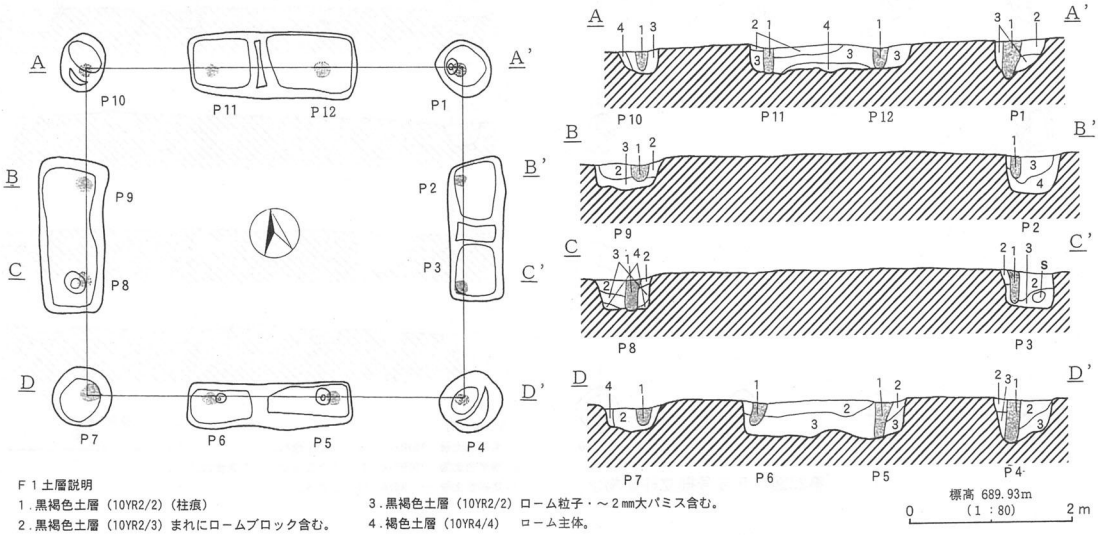
柱 穴 主柱穴P1・P2、出入口ピット2、床下ピット5、他2

出土遺物 実測個体は壺1。土器破片は赤色塗彩高杯・杯、壺、甕、鉢等破片395g、

時 期 弥生後期

(2) 掘立柱建物址

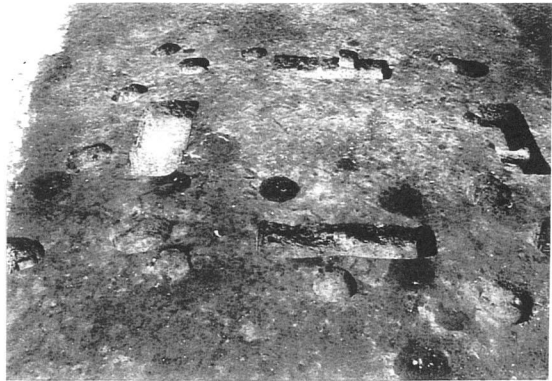
1) F 1 号掘立柱建物跡



第21図 F 1 号掘立柱建物址

【F 1 号掘立柱建物址】

様式 側柱式  
 残存状態 F 5・F 6 を切る。  
 桁行×梁行 456cm (3 間)×400cm (3 間)  
 長軸方位 N-83°-W、東西棟  
 その他 溝持ちピットを間に入れる。  
 遺物 弥生土器・古墳時代後期土器片  
 時期 古墳後期以降

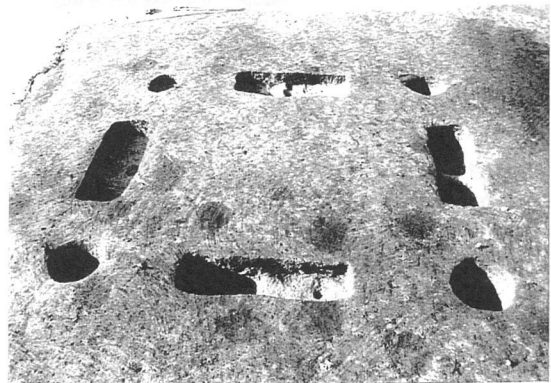


F 1 号掘立柱建物址 (南より)

2) F 5 号住居址

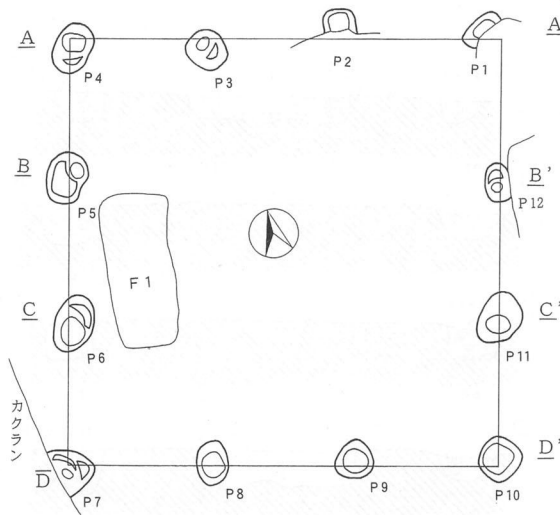
【F 5 号掘立柱建物址】

様式 側柱式  
 残存状態 F 1 に切られる。  
 桁行×梁行 520cm (3 間)×520cm (3 間)  
 長軸方位 N-10°-E  
 その他 方形  
 遺物 弥生土器・古墳時代後期土器片  
 時期 古墳後期以降

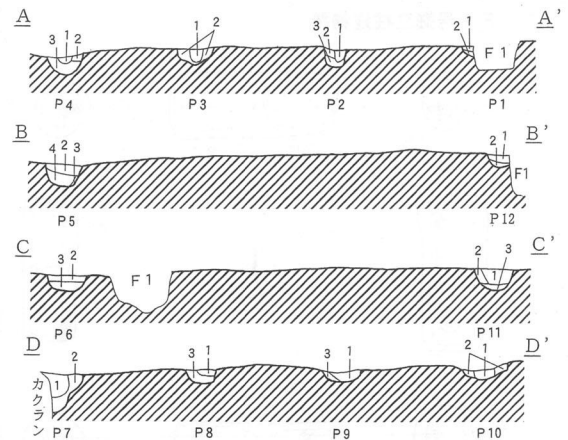


F 5 号掘立柱建物址 (南より)





第22図 F5号掘立柱建物址

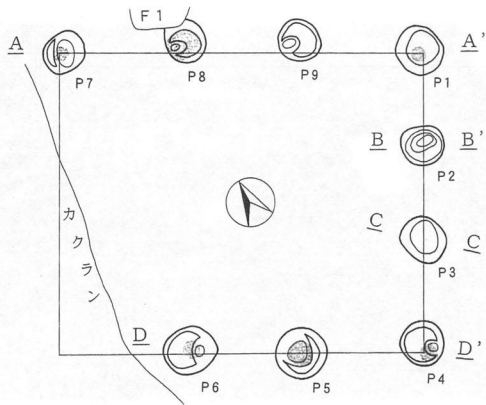


F5土層説明

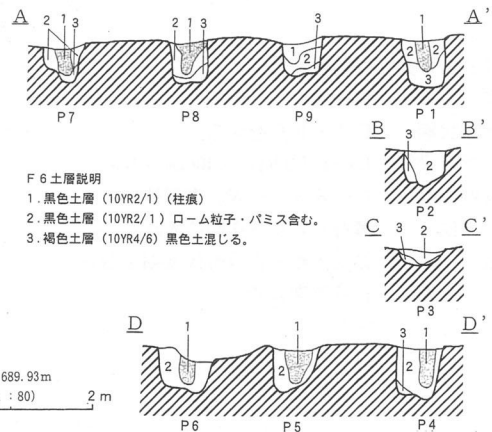
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームブロック・パミス含む。
3. 黄褐色土層 (10YR5/8) ローム主体。

標高 689.93m  
(1:80) 2m

### 3) F6号掘立柱建物址



第23図 F6号掘立柱建物址



F6土層説明

1. 黒色土層 (10YR2/1) (柱痕)
2. 黒色土層 (10YR2/1) ローム粒子・パミス含む。
3. 褐色土層 (10YR4/6) 黒色土混じる。

標高 689.93m  
(1:80) 2m

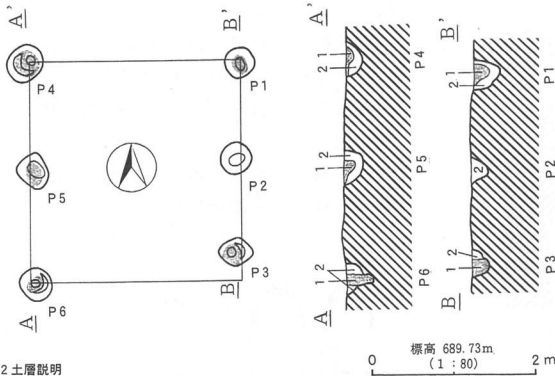
#### 【F6号掘立柱建物址】

- 様式 側柱式  
 残存状態 F1に切られる。  
 南東柱穴はI N P II調査時破壊。  
 桁行×梁行 404cm (3間) × 364cm (3間)  
 長軸方位 N-13° -E、東西棟  
 その他 梁間が狭い。  
 遺物 弥生土器・古墳後期土器片  
 時期 古墳後期以降



F6号掘立柱建物址 (南より)

4) F 2 掘立柱建物址

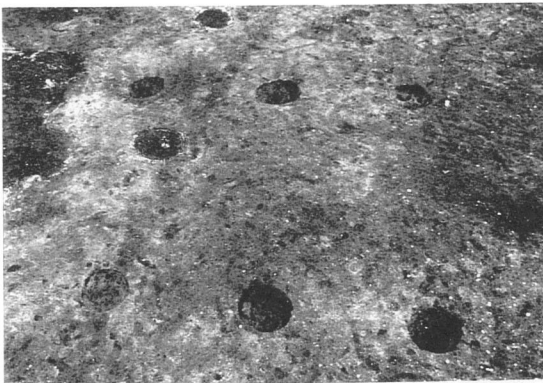


F 2 土層説明  
 1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子含む。(柱痕)  
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。

第24図 F 2号掘立柱建物址

【F 2号掘立柱建物址】

様式 側柱式  
 残存状態 重複関係なし。  
 桁行×梁行 240・268cm (2間)  
 ×256cm (1間)  
 長軸方位 N-0°、南北棟  
 その他 桁行きが狭い。  
 遺物 弥生土器  
 時期 弥生時代中期以降

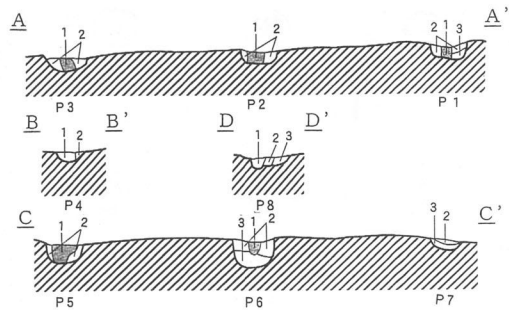
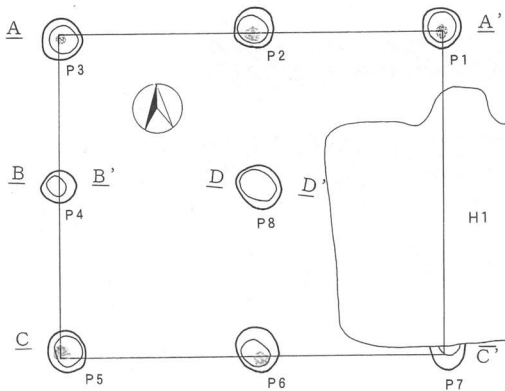


F 2 掘立柱建物址 (西より)



F 9 掘立柱建物址 (南より)

5) F 9号掘立柱建物址



F 9 土層説明  
 1. 黒色土層 (10YR2/1) (柱痕)  
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子含む。  
 3. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子多く含む。

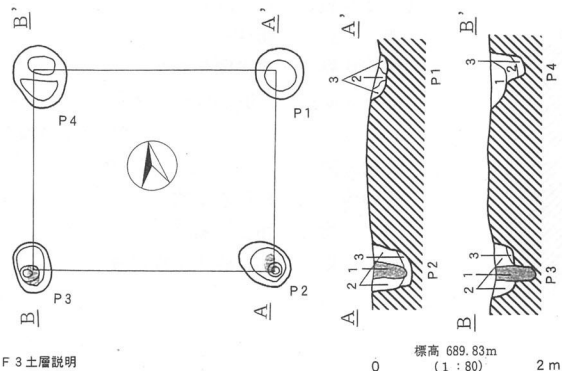
第25図 F 9号掘立柱建物址

【F 9号掘立柱建物址】

様式 総柱式  
 残存状態 H 1号住居址に切られる。  
 桁行×梁行 508cm (2間)×392cm (2間)

長軸方位 N-93°-E、東西棟  
 その他 柱間が広い。  
 遺物 弥生・古墳後期土器片  
 時期 古墳後期～奈良時代

6) F 3号掘立柱建物址



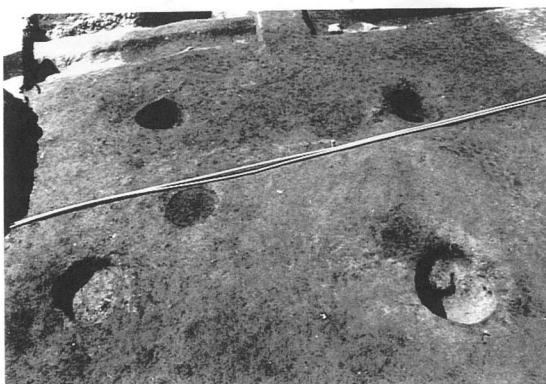
F 3土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子含む。(柱痕)
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・バミス多く含む。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子多く含む。

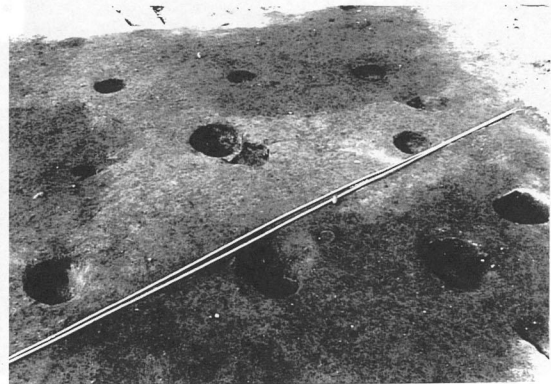
第26図 F 3号掘立柱建物址

【F 3号掘立柱建物址】

様式 側柱式  
 残存状態 F 8・H 7を切る。  
 桁×梁行 292cm (1間)×240cm (1間)  
 長軸方位 N-97°-E、東西棟  
 その他  
 遺物 弥生土器・古墳後期土器片  
 時期 古墳後期以降

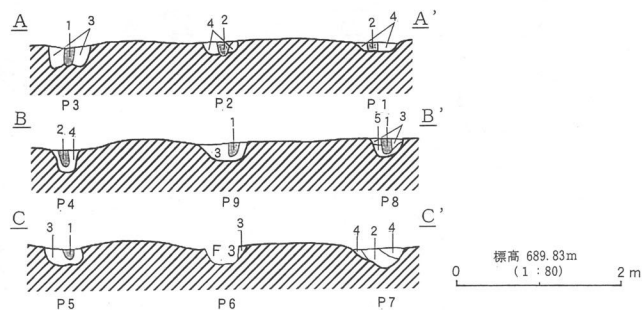
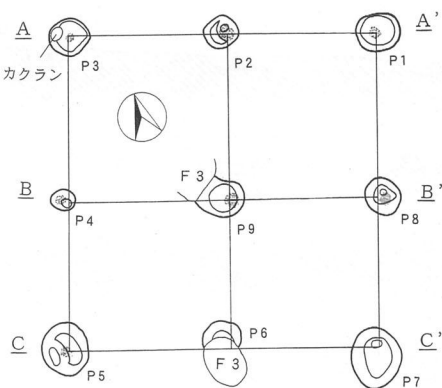


F 3号掘立柱建物址 (北より)



F 8号掘立柱建物址 (南より)

7) F 8号掘立柱建物址



F 8土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3) (柱痕)
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) (柱痕)
3. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒子・バミス含む。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 黒色土含む。
5. 褐色土層 (10YR4/6) ローム主体。

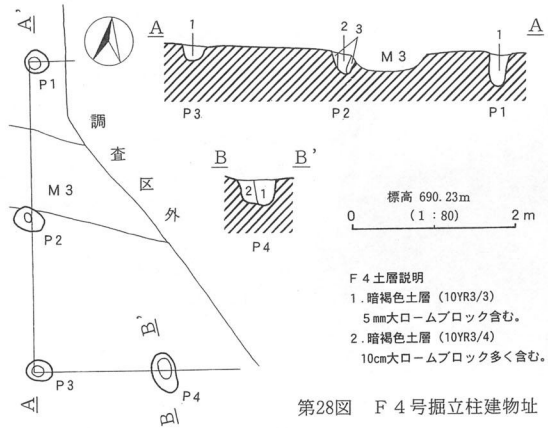
第27図 F 8号掘立柱建物址

【F 8号掘立柱建物址】

様式 総柱式  
 残存状態 H 4・7、F 3を切る。  
 桁×梁行 400cm (2間)×376cm (2間)  
 長軸方位 N-110°-E、東西棟  
 遺物 弥生・古墳後期土器片  
 時期 古墳後期以降



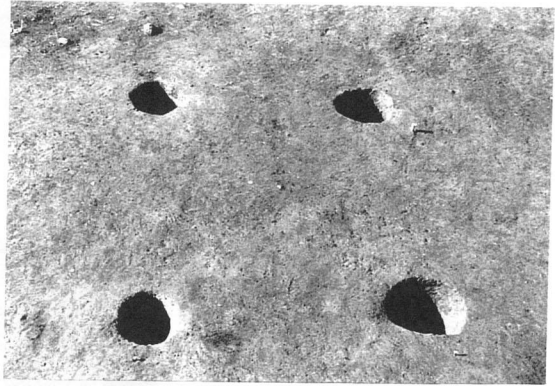
8) F 4号掘立柱建物址



第28図 F 4号掘立柱建物址

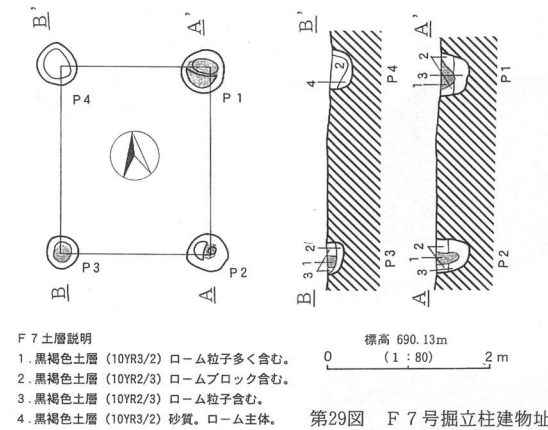


F 4号掘立柱建物址 (西より)



F 7号掘立柱建物址 (北より)

9) F 7号掘立柱建物址

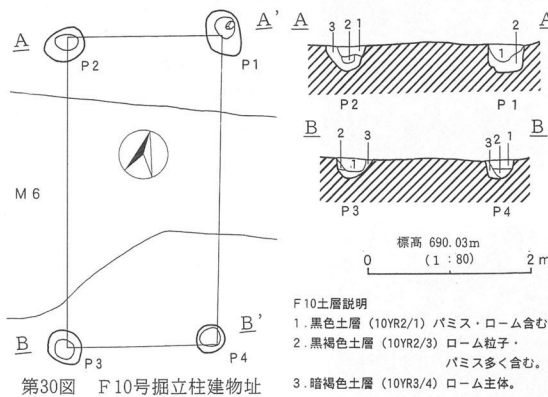


第29図 F 7号掘立柱建物址



F 10号掘立柱建物址 (西より)

10) F 10号掘立柱建物址



第30図 F 10号掘立柱建物址

【F 4号掘立柱建物址】

様式 不明  
残存状態 M3を切る。東半城は区域外。  
桁行×梁行 376cm(2間)×-  
長軸方位 N-9°-W  
遺物 古墳後期土器片 時期 古墳後期以降

【F 7号掘立柱建物址】

様式 側柱式 残りの状態 重複関係なし。  
桁行×梁行 232cm(1間)×180cm(1間)  
長軸方位 N-6°-E、南北棟  
遺物 弥生・古墳後期土器片  
時期 古墳後期以降

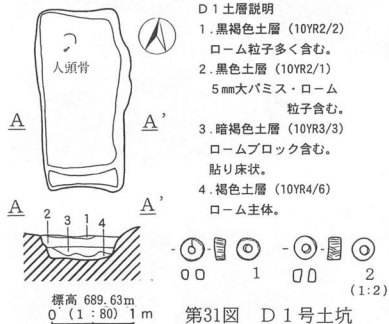
桁行×梁行 380cm(2間?)×188cm  
長軸方位 N-20°-W  
遺物 弥生土器片  
時期 弥生中期以降

【F 10号掘立柱建物址】

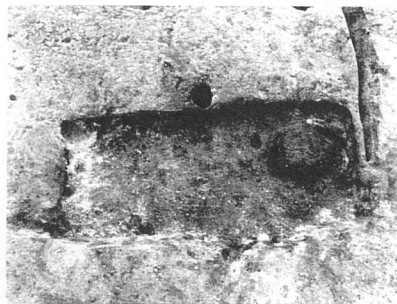
様式 不明  
残存状態 I N P II次調査時に中間破壊される。

### (3) 土壌・土坑

#### 1) D1号土坑



- D1土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
ローム粒子多く含む。
  2. 黒色土層 (10YR2/1)  
5mm大バミス・ローム  
粒子含む。
  3. 暗褐色土層 (10YR3/3)  
ロームブロック含む。  
貼り床状。
  4. 褐色土層 (10YR4/6)  
ローム主体。



D1号土坑 (東より)

#### 【D1号土坑】 (C<1)

規模 (長径×短径×深さ)  
224cm×116cm×17cm

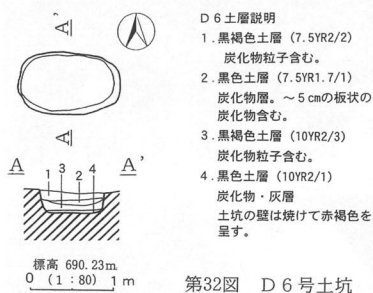
平面形 長方形

遺物 弥生中期・古墳中期  
土器片、人骨頭部骨  
・歯、白玉

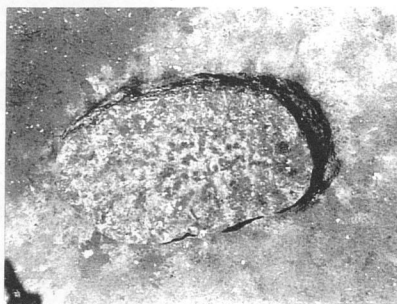
時期 古墳時代

性格 墓

#### 2) D6号土坑



- D6土層説明
1. 黒褐色土層 (7.5YR2/2)  
炭化物粒子含む。
  2. 黒色土層 (7.5YR1.7/1)  
炭化物層。～5cmの板状の  
炭化物含む。
  3. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
炭化物粒子含む。
  4. 黒色土層 (10YR2/1)  
炭化物、灰層  
土坑の壁は焼けて赤褐色を  
呈す。



D6号土坑 (南より)

#### 【D6号土坑】 (Aか8)

規模 (長径×短径×深さ)  
124cm×76cm×27cm

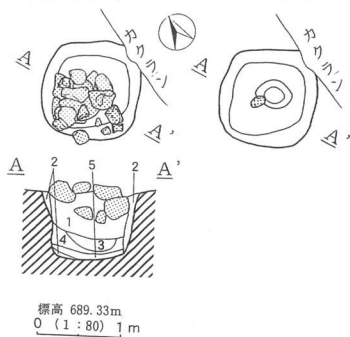
平面形 楕円形

遺物 弥生・古墳後期・  
平安土器片・炭化材

時期 平安時代

性格 焼成坑

#### 3) D2号土坑



- D2土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂を含む粘質土。鉄分含む。
  2. 明黄褐色土層 (10YR6/6) 砂質ローム。
  3. 褐色土層 (7.5YR5/4) 砂質ローム。
  4. にぶい褐色土層 (7.5YR5/4) 砂質ローム。
  5. 褐色土層 (7.5YR4/3) 砂質ローム。



D2号土坑石出土状況 (北より)

#### 【D2号土坑】 (Bう2)

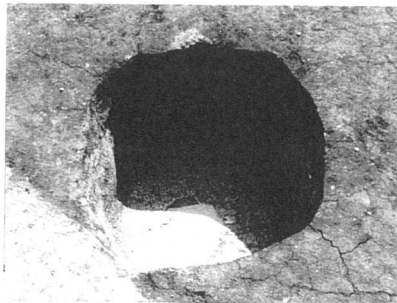
規模 (長径×短径×深さ)  
116cm×116cm×86cm

平面形 隅丸方形

遺物 弥生・平安土器片・  
川原石

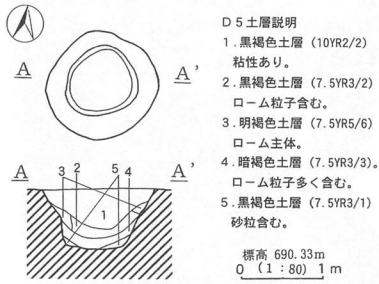
時期 平安時代

性格 井戸



D2号土坑 (東より)

4) D 5号土坑



第34図 D 5号土坑第34図

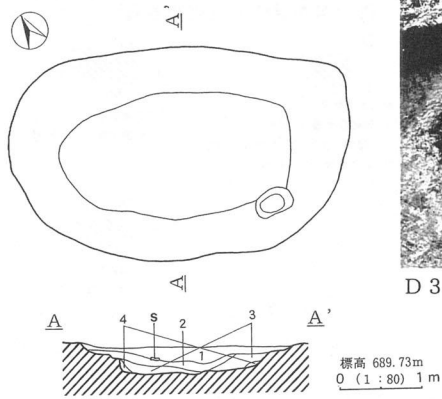


D 5号土坑 (南より)

【D 5号土坑】 (Bう2)

規模 (長径×短径×深さ)  
 134cm×128cm×74.5cm  
 平面形 円形  
 遺物 弥生・古墳土器片  
 時期 古墳時代以降  
 性格 井戸

5) D 3号土坑



第35図 D 3号土坑

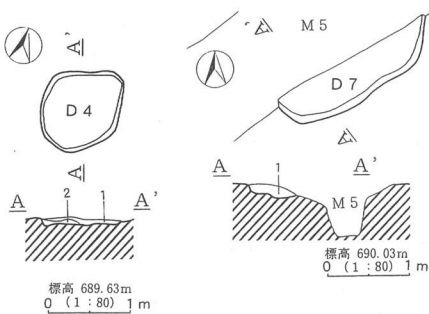


D 3号土坑 (南より)

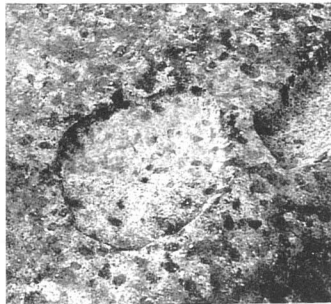
【D 3号土坑】 Bあ3

規模 (長径×短径×深さ)  
 414cm×258cm×37.5cm  
 平面形 不整楕円形  
 遺物 常滑甕・珠洲系甕・  
 弥生土器破片  
 時代 中世  
 性格 池

6) D 4・7号土坑



第36図 D 4・D 7号土坑実測図



D 4号土坑 (西より)

【D 4号土坑】 (Aけ4)

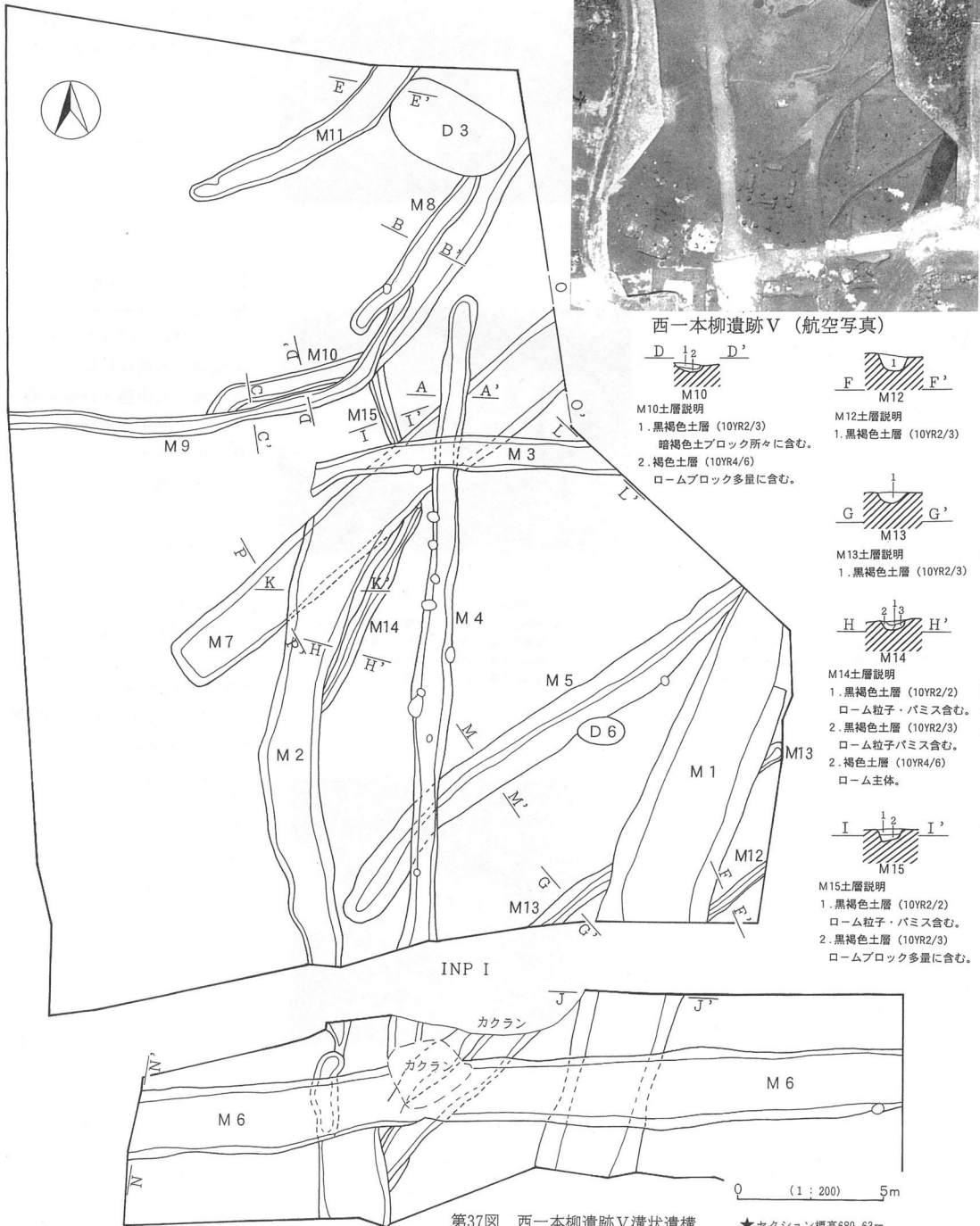
規模 (長径×短径×深さ)  
 110cm×96cm×11cm  
 平面形 不整円形  
 遺物 内面黒色杯・長胴甕片  
 時代 古墳時代  
 性格

【D 7号土坑】 (Aき8)

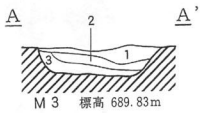
規模 (長径×短径×深さ)  
 216cm×—cm×16cm  
 平面形 不整隅丸方形  
 遺物 なし  
 時代 不明  
 性格 不明



(4) 溝状遺構



1) M3号溝状遺構



- M3土層説明  
 1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 小石含む。  
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) ロームブロック塊状に堆積。  
 3. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロック多量に含む。



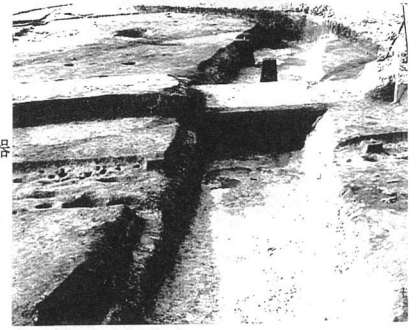
M3号溝状遺構 (東より)



M6号溝状遺構 (東より)



M4号溝状遺構 (南より)



M1号溝状遺構 (南より)

第38図 M3号溝状遺構

検出位置 Aき6～Aけ6

重複関係 M4・M7を切る。

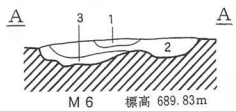
規模 幅90～112cm深さ17～29cm

方向 (高低差) 東から西へ (27.5cm)

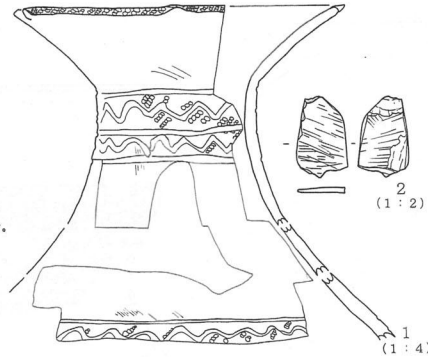
出土遺物 武蔵甕片・須恵器大甕片・古墳時代後期土器片

時代 平安時代以降

2) M6号溝状遺構



- M6土層説明  
 1. 黒褐色土層 (10YR2/3) シルト質土主体。  
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 緻密。小石含む。  
 3. 黒褐色土層 (10YR2/3) 1mm大バミス



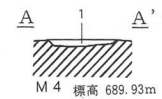
第39図 M6号溝状遺構

検出位置 Cえ1～Dえ1 重複関係 M1・M2・M13・H7・H6を切る。

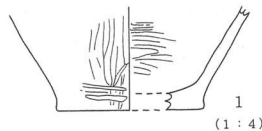
規模 幅196～222cm深さ28～43cm 方向 (高低差) 東から西へ (65cm)

出土遺物 武蔵甕片・須恵器杯片、弥生・古墳土器片 時代 平安時代以降

3) M4号溝状遺構



- M4土層説明  
 1. 黒褐色土層 (10YR2/3)



第40図 M4号溝状遺構

検出位置 Aく4～Aく10

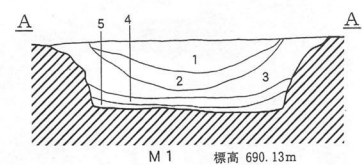
方向 (高低差) 南北 (0cm)

重複関係 M3に切られM5・M7を切る。 出土遺物 須恵器杯・甕片、弥生土器

規模 幅60～120cm深さ5～25cm

時代 平安以降

4) M1号溝状遺構



- M1土層説明  
 1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 細かい砂粒含む。下面に鉄分の層あり。  
 2. 黒色土層 (10YR1.7/1) 5mm大のバミス含む。  
 3. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・バミス含む。  
 4. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子多量に含む。  
 5. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) ローム主体。

検出位置 Aか7～Cか2

重複関係 M5・H2を切る

規模 幅330～360cm

深さ86～93cm

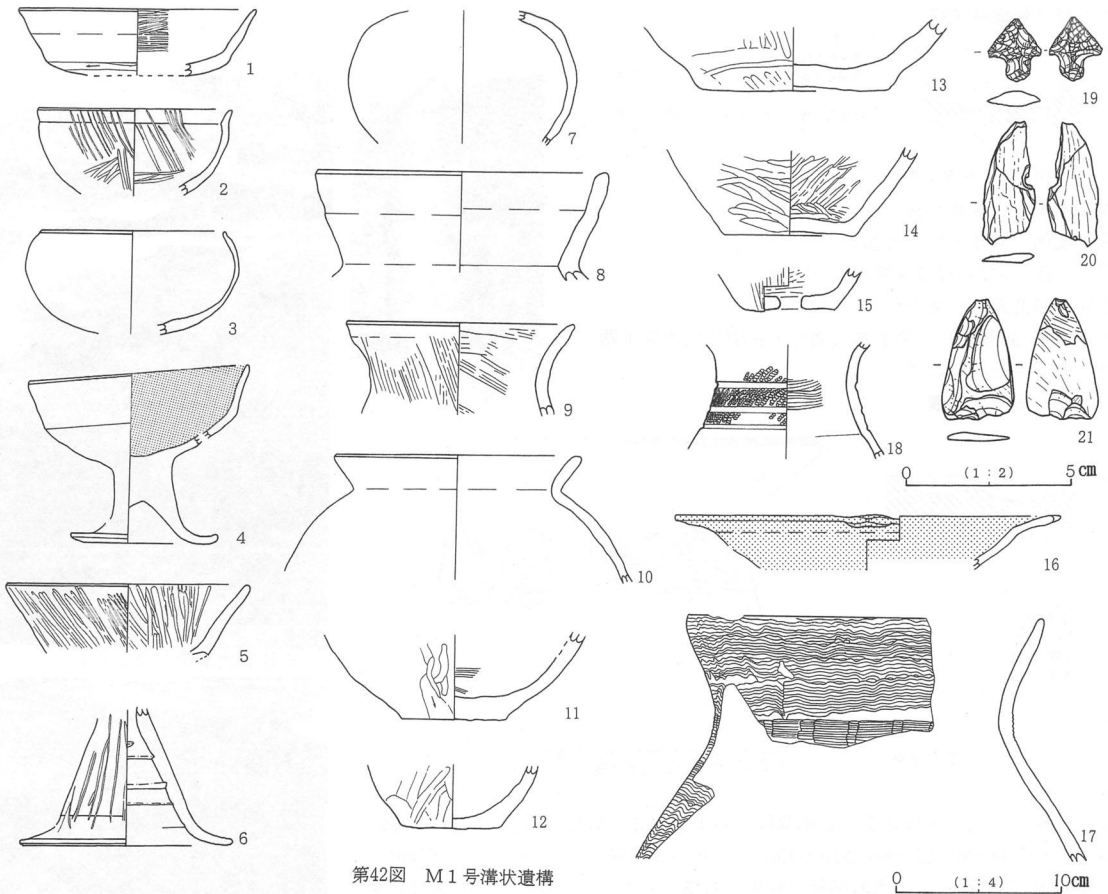
方向 (高低差)

北から南へ (7cm)

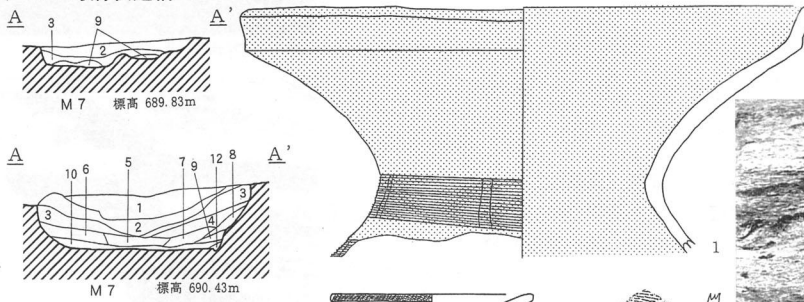
出土遺物 弥生～古墳時代

時代 古墳時代以降

第41図 M1号溝状遺構

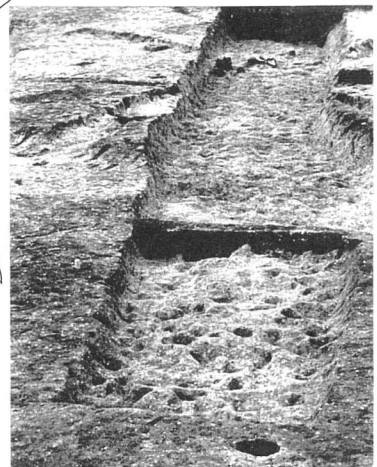


5) M7号溝状遺構



M7土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)・褐色土 (10YR4/6) ロームブロック混在層。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) ロームブロック含む。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) ロームブロック多量に含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/2) ロームブロック含む。
5. 黒褐色土層 (10YR3/1) シルト質土。
6. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・パミス含む。
7. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒子含む。
8. 褐色土層 (10YR4/6) ローム主体。
9. 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。
10. 灰黄褐色土層 (10YR5/2) シルト粘質土。



M7号溝状遺構 (西より)

第43図 M7号溝状遺構



【M7号溝状遺構】

検出位置 Aき4～Aこ7  
 重複関係 M2・M3・M4に切られる。  
 規模 幅170～230cm深さ10～54cm  
 方向 (高低差)  
 西から東へ (13cm)

出土遺物 弥生時代末  
 時代 弥生時代以降

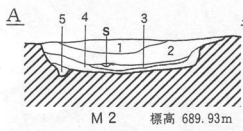
【M2号溝状遺構】

検出位置 Aく4～Aく2  
 重複関係 M3・M4・M6に切られる。M7を切る  
 規模 幅186～258cm深さ14～40cm  
 方向 (高低差)  
 南から北へ (32cm)

出土遺物 弥生時代末  
 時代 弥生時代以降

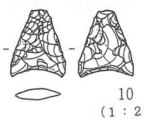
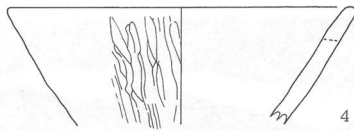
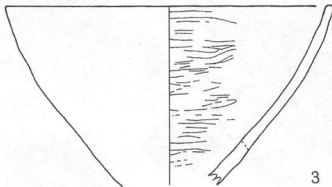
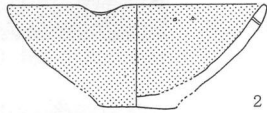
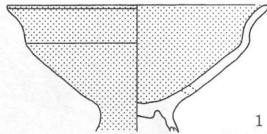
M2とM7は重なり、北東ではどちらのプランなのかかわからない。出土遺物M7の1壺と、M2の6の甕の時代は一致する。従って調査時ではわからなかったが、M2のプランがそのままM7に乗っていたのであろう。

6) M2号溝状遺構

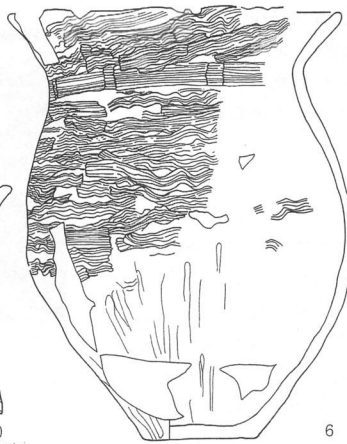


M2土層説明

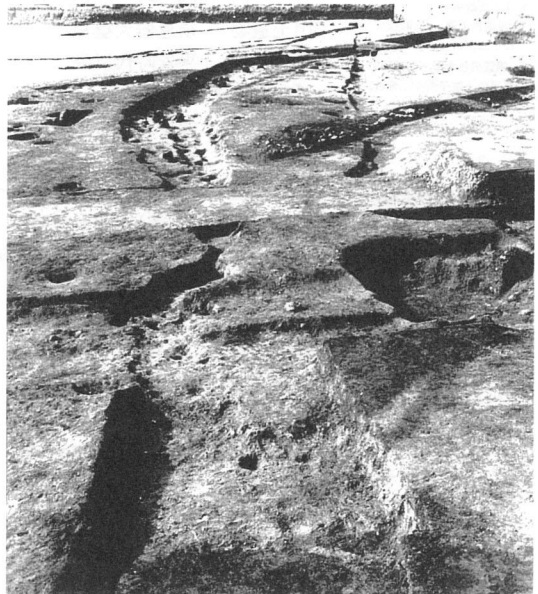
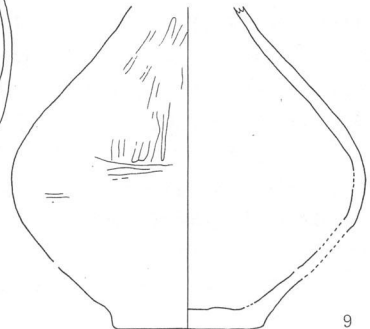
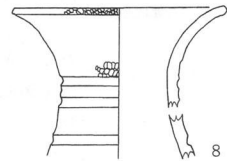
1. 黒色土層 (10YR2/1) ~5mm大バミス含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) ~1cm大バミス・ローム粒子含む。
3. 暗褐色土層 (7.5YR3/3) 粘質土ローム粒子多く含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/3) ~1cm大バミス・ローム粒子含む。
5. 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームブロック多く含む。



10  
(1:2)



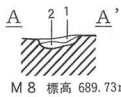
Q (1:4) 10cm



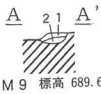
M2号溝状遺構 (南より)

第44図 M2号溝状遺構

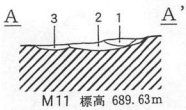
7) M8～M15号溝状遺構



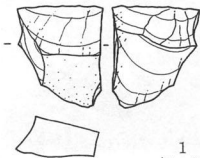
M8 標高 689.73m  
M8土層説明  
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
ロームブロック5mm大含む。  
2. 明褐色土層 (7.5YR5/8)  
ローム主体。  
暗褐色土ブロック混。



M9 標高 689.63m  
M9土層説明  
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
ロームブロック多く含む。  
2. 明黄褐色土層 (10YR6/8)  
黒褐色土粒子少々を含む。



M11土層説明  
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
ローム粒子・パミス含む。  
2. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
ローム粒子・パミス含む。  
2. 暗褐色土層 (10YR3/4)  
ローム粒子多く含む。



第45図 M8・9・11号  
溝状遺構

【M8号溝状遺構】

検出位置 Aき3～Aく4  
重複関係 M9・M10を切る  
規 模 幅34～52cm深さ9～11cm  
方 向 (高低差) 北から南へ (3cm)  
出土遺物 須恵器大甕片  
時 代 平安時代以降

【M9号溝状遺構】

検出位置 Aく4～Bあ5  
重複関係 M10を切る。M8に切られる。  
規 模 幅42～44cm深さ11～21cm  
方 向 (高低差) 北から南へ (4cm)  
出土遺物 須恵器大甕片  
時 代 平安時代以降

【M11号溝状遺構】

検出位置 Aき2～Aこ3  
重複関係 なし  
規 模 幅120～134cm深さ7～9cm  
方 向 (高低差) 北から南へ (19cm)  
出土遺物 弥生中期土器、古墳時代土器  
時 代 古墳時代以降

【M12号溝状遺構】

検出位置 Aお9  
重複関係 M1に切られる。  
規 模 幅26～36cm深さ18～22cm  
方 向 (高低差) 北から南へ (10cm)  
出土遺物 弥生中期壺  
時 代 弥生時代中期以降

【M13号溝状遺構】

検出位置 Cく1～Aお8  
重複関係 M1に切られる。  
規 模 幅26～40cm  
深さ5～13cm  
方 向 (高低差) 北から南へ (11cm)  
出土遺物 弥生中期塗彩杯、壺  
時 代 弥生時代中期以降

【M10号溝状遺構】

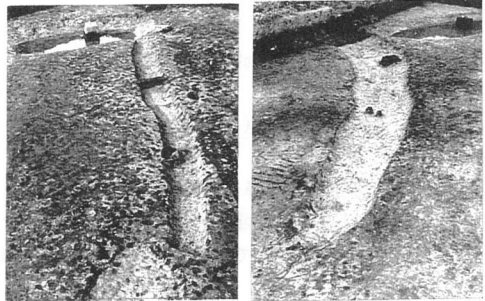
検出位置 Aき3～Aこ5  
重複関係 M8・M9に切られる。  
規 模 幅56～108cm  
深さ13～18cm  
方向 (高低差) 北から南へ (13cm)  
出土遺物 弥生塗彩杯・壺片  
時 代 弥生時代以降

【M14号溝状遺構】

検出位置 Aか4～Aけ7  
重複関係 M2・M7  
規 模 幅28～52cm  
深さ5～13cm  
方向 (高低差) 北から南へ (19cm)  
出土遺物 須恵器甕  
時 代 古墳時代以降

【M15号溝状遺構】

検出位置 Aく5 重複関係 M10に切られる。 規 模 幅26～36cm 深さ6～19cm



M8号溝状遺構 (西より) M11号溝状遺構 (南)



M9号溝状遺構 (西より)



M10号溝状遺構 (西より)



M12・M13溝状遺構 (南より)

8) M5号溝状遺構

検出位置 Aか7~Aか8

重複関係 M1・M4、D6・D7に切られる

規模 幅112~146cm

深さ57~58cm

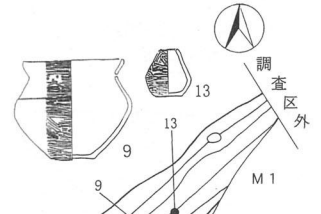
方向(高低差) 東から西へ(10cm)

出土遺物 弥生中期土器群・石製品

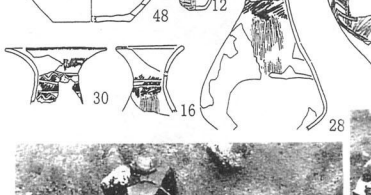
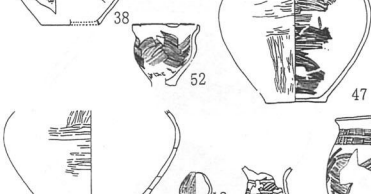
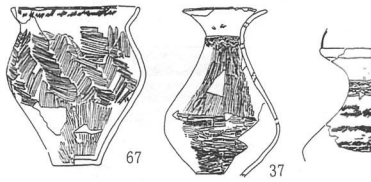
時代 弥生時代中期



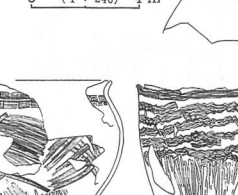
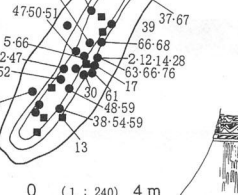
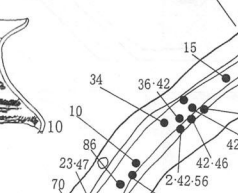
M5号溝状遺構(西より)



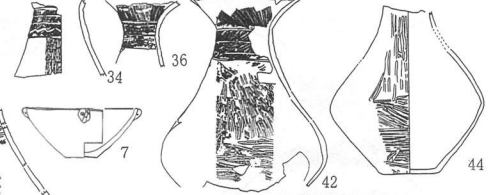
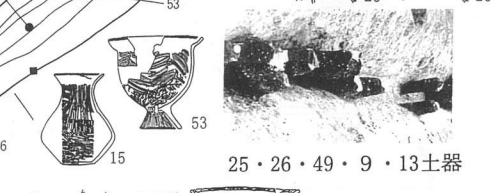
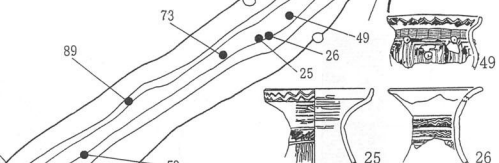
67・37・10土器出土状況



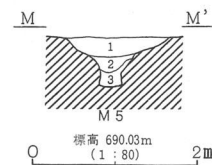
16・22・30・38・48・52土器



50・23・28・47・66・68土器

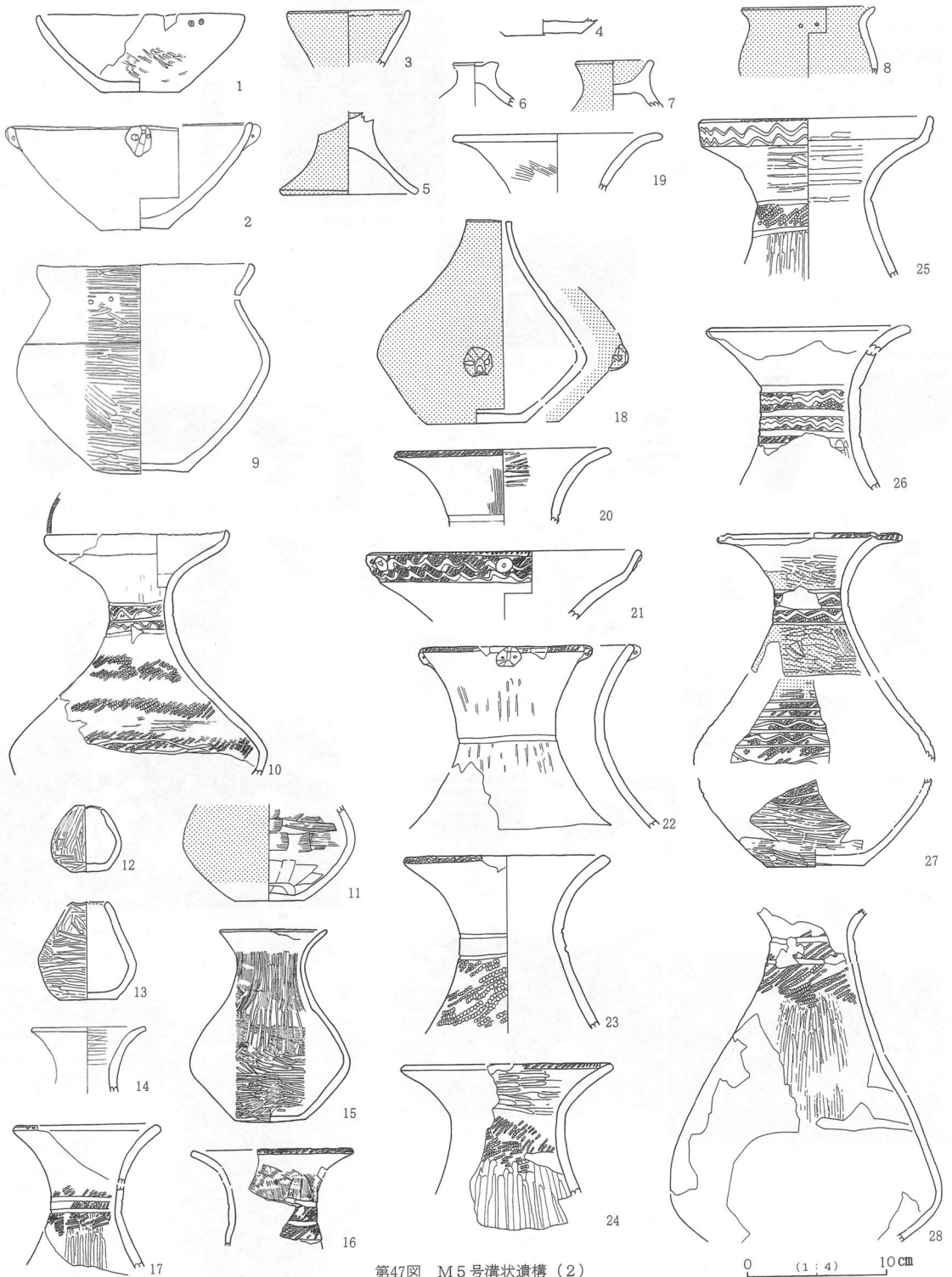


25・26・49・9・13土器



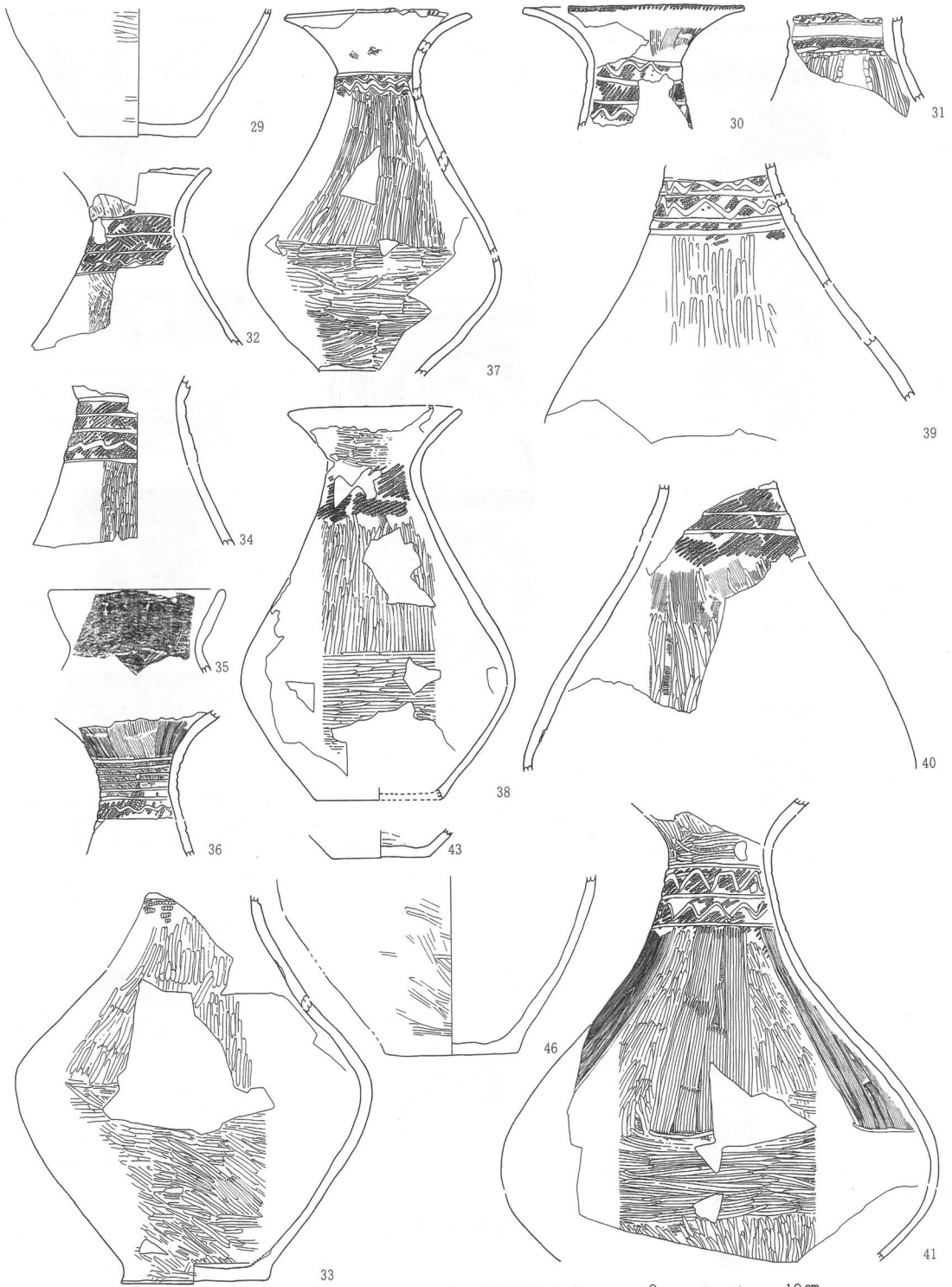
- M5土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ~5mm大のバミスが多く、10cm大バミスも含む。炭化物・焼土粒子含む。土器包含層。
  2. 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 細かいバミス含む。
  3. 黒褐色土層 (7.5YR2/3) 地山のピンクローム粒子多く含む。小石含む。

第46図 M5号溝状遺構(1)



第47图 M5号沟状遗構 (2)



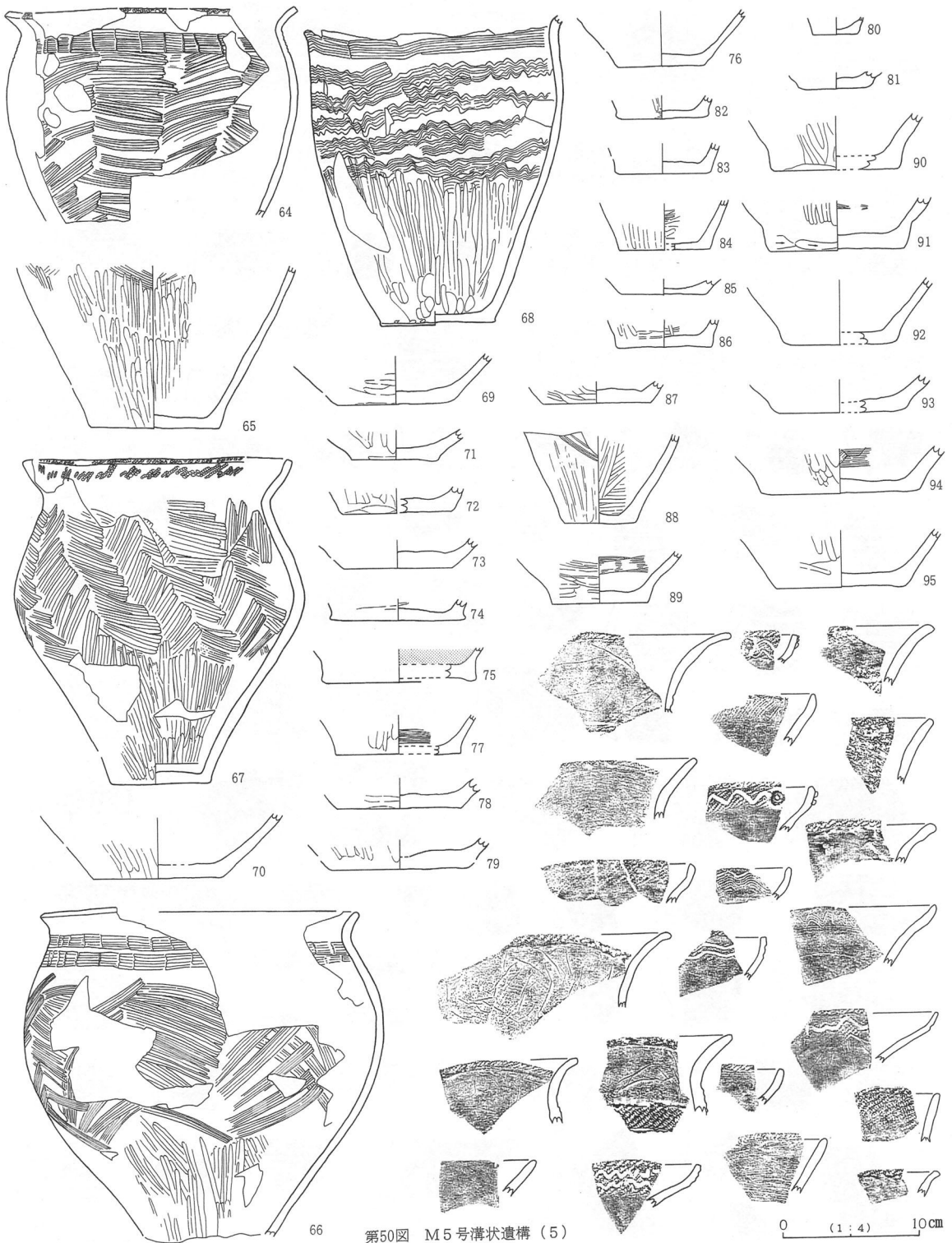


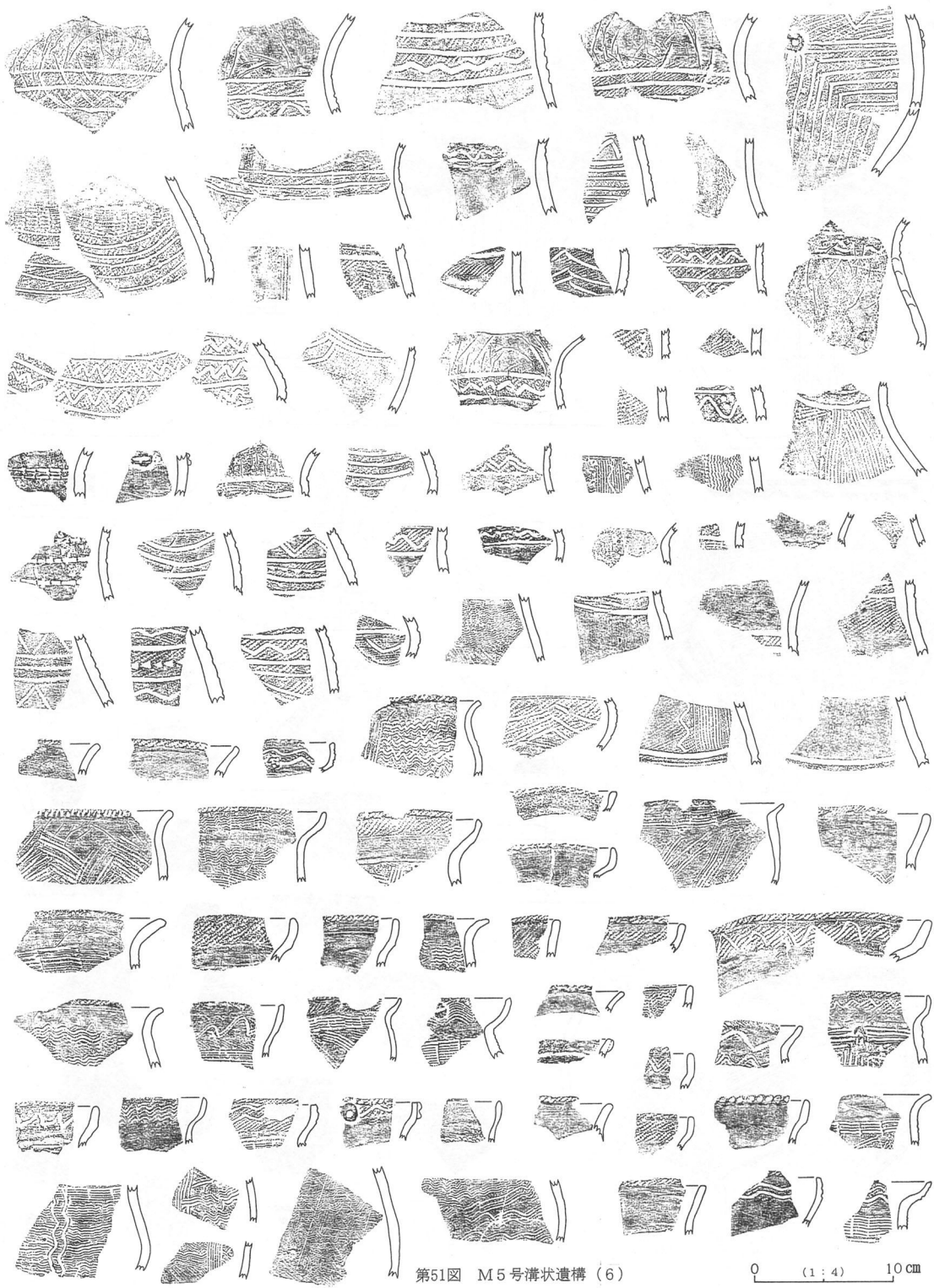
第48图 M5号沟状遗構 (3)



第49图 M5号沟状遗构(4)

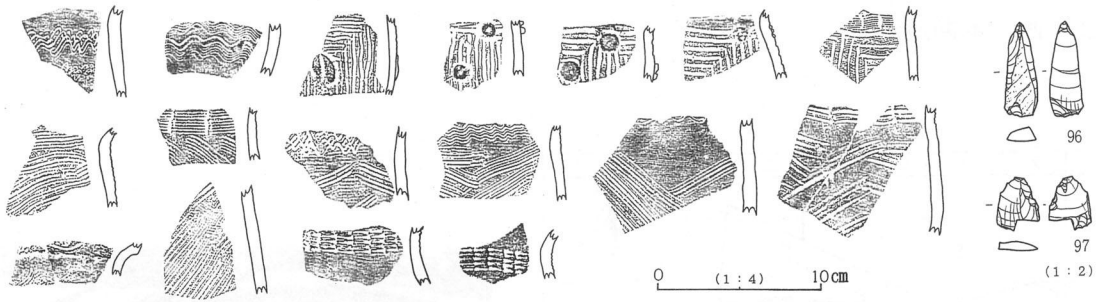
0 (1:4) 10 cm





第51图 M5号沟状遗構 (6)

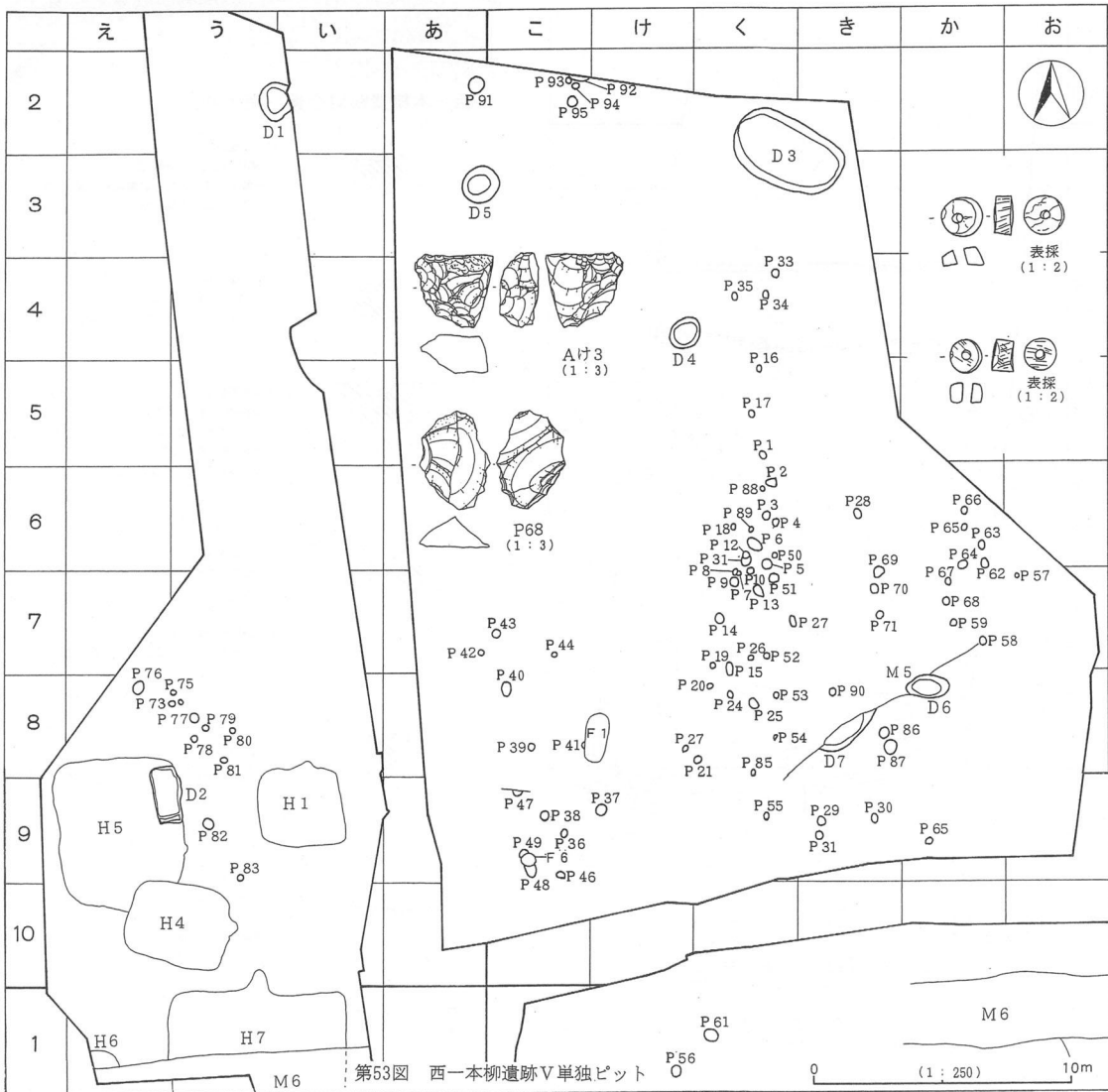




第52図 M5号溝状遺構(7)

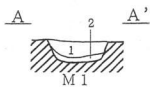
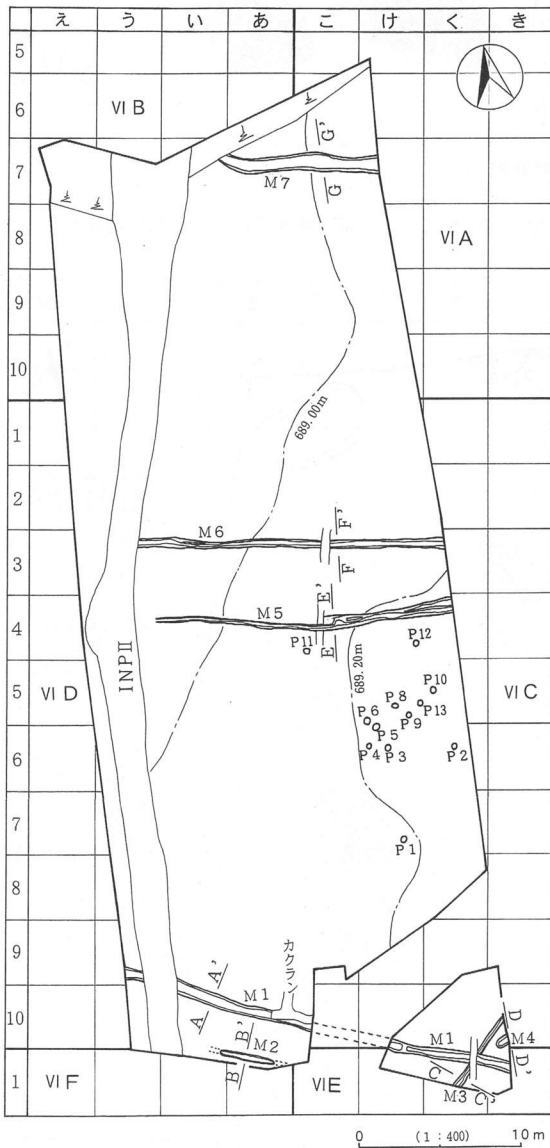
(5) 単独ピット

単独ピットは95個検出された。M4号溝状遺構に沿ってみられるピットは溝の補強用杭などとして関連が見いだせるものの他は掘立柱建物址に組むことは出来なかった。



第53図 西一本柳遺跡V単独ピット

## 2. 西一本柳遺跡VI

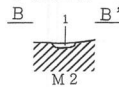


- M 1 土層説明**
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・ロームブロック・バミス少し含む。
  2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 黒褐色土とローム粒子・ロームブロック混在。

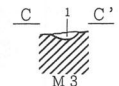
第54図 西一本柳遺跡VI溝状遺構・単独ピット



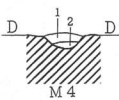
西一本柳遺跡VI全景 (南より)



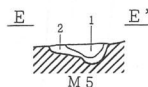
- M 2 土層説明**
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂質土・地山のにぶい黄褐色土層 (10YR5/4) 粒子・ブロック多く含む。



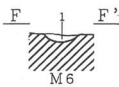
- M 3 土層説明**
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・ロームブロック含む。



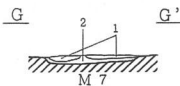
- M 4 土層説明**
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・ロームブロック少し含む。
  2. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・ロームブロック多く含む。



- M 5 土層説明**
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・ロームブロック少し、バミス含む。
  2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子・ロームブロック多く含む。



- M 6 土層説明**
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) バミス少し含む。耕作土に近く、新しい溝か。



- M 7 土層説明**
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子・ロームブロック少量のバミス含む。
  2. 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。

★セクションの標高689.40m

★セクションの縮尺は (1 : 80)

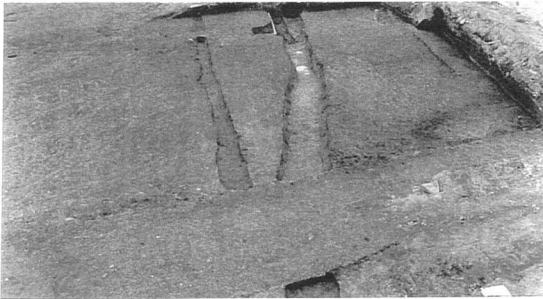
西一本柳遺跡VIからは溝状遺構と単独ピットが検出され、竪穴住居址・掘立柱建物址は検出されなかった。

### (1) 溝状遺構

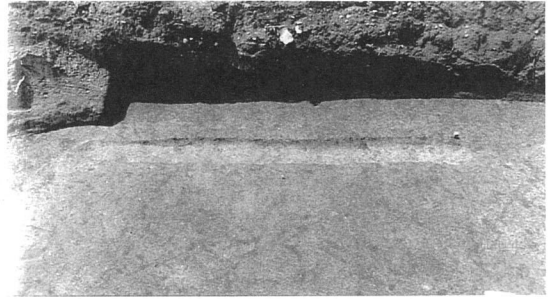
M1～M7まで7本の溝状遺構が検出された。出土した土器片も少数で磨耗しており、混入品が多いので溝状遺構の時代性格の把握は難しい。この中でM3は弥生中期の破片のみ、M6は近代陶器を含む。

### (2) 単独ピット

Cく4～Cく～こ5・6グリットからまとまって12個の単独ピットが検出された。



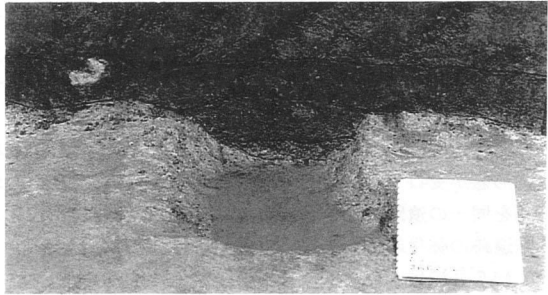
M1号溝状遺構（西より）



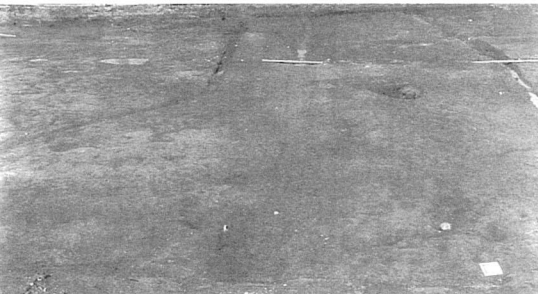
M2号溝状遺構（北より）



M3号溝状遺構（南より）



M4号溝状遺構（西より）



M5・M6号溝状遺構（西より）



M7号溝状遺構（南西より）

## 第5節 総括

一本柳遺跡Ⅴの調査では弥生時代中期・古墳時代後期・平安時代の竪穴住居址、掘立柱建物址、土坑、墓壙、井戸址、溝を検出した。国道141号線の西一本柳Ⅱ～Ⅳの調査で220棟の竪穴住居址、掘立柱建物址45棟等が検出されている。今回の調査はその北に続いて延長する地点である。3棟は西一本柳Ⅲ・Ⅳと同一の住居址であり、西一本柳遺跡Ⅲ・ⅣのH17と西一本柳遺跡ⅤのH7、同様にH1とH8、H2とH2は同じ住居址である。M1・M2も本調査区に延長していることが確認できた。今回の調査により、新たに見つかったのは竪穴住居址5棟、掘立柱建物址10棟、墓壙1基、土坑（井戸址）5基、溝址8本である。

集落の立地についてみると、西一本柳遺跡Ⅴ地点より北側では、竪穴住居址や掘立柱建物址が検出されず、道路幅の狭い範囲ながら西一本柳遺跡集落の北限が明確にできた。西一本柳遺跡Ⅴの調査区南から徐々に北に傾斜し、標高689.50m以下は竪穴住居址・掘立柱建物址などの建物跡は検出されなくなる。さらに北の西一本柳遺跡Ⅵ地点では土坑もなく居住域でないことが確かめられた。西一本柳遺跡Ⅵ地点は、現水田下には黒褐色土が堆積し、現状水田面から50cm程下に水田層がみられた。西一本柳遺跡Ⅵ地点、特に北側は水田域であったようだ。西一本柳遺跡Ⅴ地点が古代集落の北端である。

### 1. 弥生時代

#### 弥生時代中期

##### 遺物

弥生時代の土器は弥生時代中期が主体である。H2・H3・H5号住居址からは受口口縁壺の実測資料はなく、口縁が単に外反する単純口縁の壺がある。いずれも口縁端部は面取り後縄文を転がし、頸部に縄文、棒状具で横位に直線沈線や波状の沈線を引いている。胴上部・同中位には文様を持たない。壺胴上半に文様を持つのは懸垂文を持つ1例がある。甕形土器は受口口縁がみられ、口唇部に縄文、口縁外面に縄文または横位の櫛描波状文、頸部に櫛描簾状文ないしは横線、胴上部は縦の櫛描斜走文を羽状に施すか横位の櫛描波状文を巡らしている。台付甕もある。他に塗彩された高杯・杯、無彩の甌などがある。

壺形土器は頸部に文様が限られ、縄文と棒状具により横位に平行沈線を施すものが主体を占める。甕形土器の口縁部形態が受口で、口唇部・口縁外面に縄文、胴上部に縦羽状に櫛描斜走文がみられる。これらの壺・甕のセットの時期を同一の遺跡の報告書である1999『西一本柳Ⅲ・Ⅳ』の土器群と検討してみると、弥生時代中期新相としており、本遺跡の弥生時代の土器も該当するものと思われる。

M5号溝址から大量の弥生中期の土器群が出土している。これは西一本柳Ⅲ・ⅣのM8号溝址（以下M8と略）と同様の性格を持つものである。この幅150cm未満、深さ60cm未満の溝の1層中からの土器の出土量は、極めて多量であり、器種も揃っている。実測した他にも破片は多量にある。拓本に示したように、器形や文様の多様さはかなりの物である。西一本柳Ⅲ・ⅣのM8も同様の状況である。M5号溝の延長は大きな円弧を描き、M8に連続するかのようであるが、全体を調査してみないことには明らかではない。M5の土器群は壺形土器は受口口縁が3個、外反する単純口縁で口縁端部を面取りするものが11個、単純に外反するが面取りしない口縁が2個と3種の口縁部形態がある。甕形土器も受口口縁が5個、端部を面取りし外反する口縁が2個、単純に外反し面取りしない口縁が2個、と3形態があった。面取りされず、刻み目、縄文を施さない単純に外反するだけの口縁部形態が壺・甕とみられた点が、やや住居址の土器群より新しい要素ともみれるが、時期差を設定するようなものでなく、ほぼ同期の弥生時代中期後半新相であろう。

##### 遺構

H2・H3・H5号住居址は土器から同期の遺構であることがわかった。住居址規模は長軸5.3～5.8m、短軸4.6～5.0mを測る隅丸の方形に近い形態である。この時期では中規模の住居址である。炉は地床炉で中央にあり、南側に炉縁石を置いている。

### 2. 弥生時代後期

H8号住居址は西一本柳Ⅲ・Ⅳ調査時に弥生時代後期古相の甕が3個体実測されており、20-1の壺は弥生中期の新相のものであり、一時期古い混入品である。

H8号住居址は長軸7.8mを測り、隅丸長方形を呈す。炉の位置も北側主柱穴の間にある。弥生時代後期古相の住居



址である。

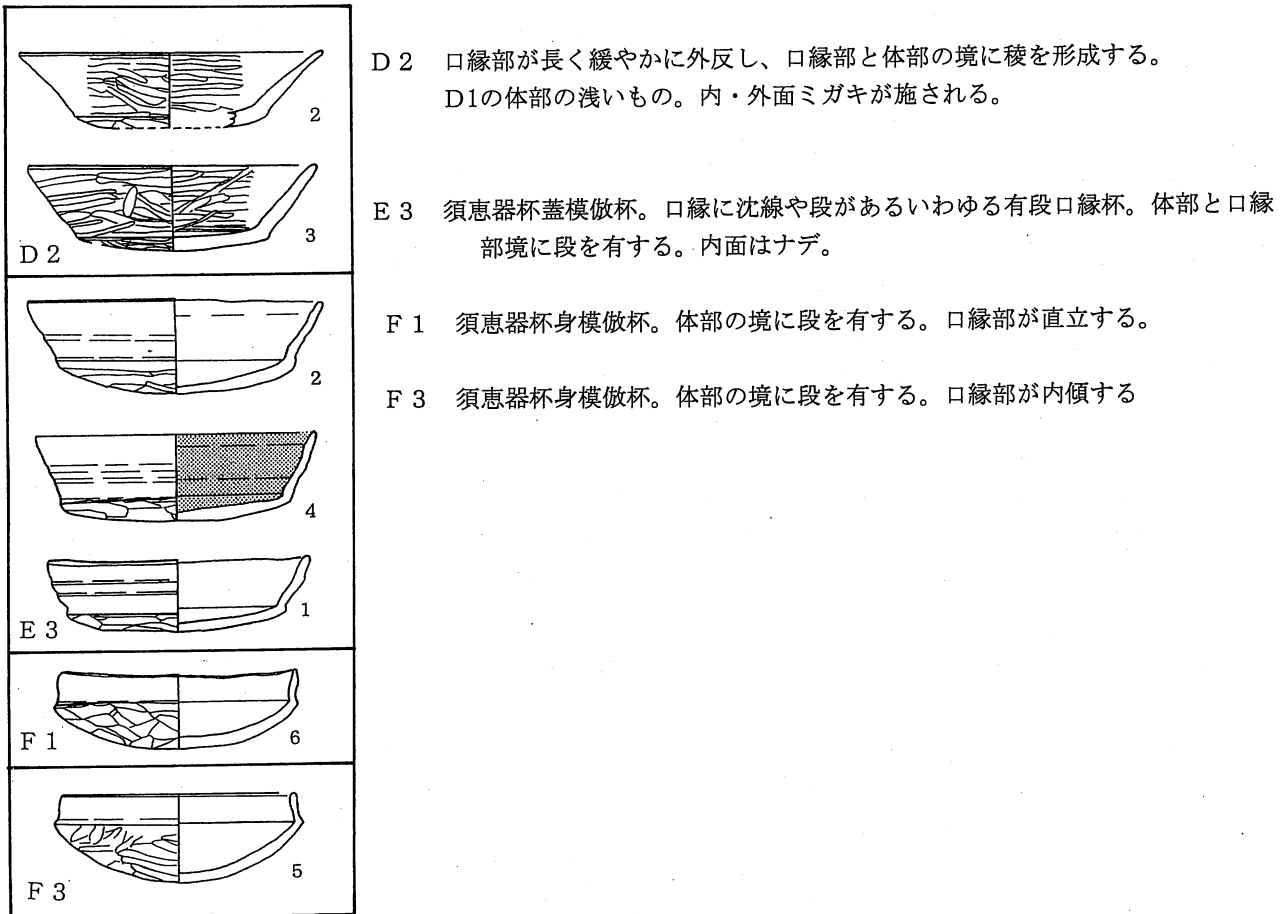
### 3. 古墳時代

#### 遺物

H4・7号住居址からは土師器杯・鉢・甕・甑が出土している。同じ西一本柳遺跡の報告書である1999『西一本柳Ⅲ・Ⅳ』に沿って土師器杯の分類してみた。

これらは古墳時代後期中葉に分類されているものである。甕形土器は長胴化し、外面にヘラケズリが施される。口縁部径に最大径があるものとなないものがあるが、形態的な差異はない。7世紀中頃に比定される。

H6号住居址からは口縁部形態が「く」字形を呈し、やや厚手の武蔵型甕があるが、古墳時代末であろうか。



第55図 杯分類図

#### 遺構

H4とH7号住居址は古墳時代後期の住居址であるが規模についてみる。西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳとの比較からは南北270cm、東西346cmを測るH4は最も小型の住居址、一辺640cmの方形を呈するH7は大型住居址の規模である。

カマドの設置位置はH4は西壁に、H7は北壁中央につくられ、地山を掘り残して粘土を貼っている。H7のカマドの両脇に土器がセットされた状態で出土し、カマドの余熱の利用の様子が窺えた。支柱穴ではH7の柱穴は変わった埋め方が看取された。一般的には床面を作って、柱穴を柱材より大きく掘り、柱を入れ、土を入れて柱を固定するため柱痕と堀方が伴っているが、本住居址には柱痕のみでその堀方がない。住居址の中心部を高く掘り残し、周囲を低くした住居址堀方の段階で、柱を建て、床を貼っている。

溝址については、西一本柳Ⅲ・Ⅳで同一の溝であったM1が分かれてM2とM1号溝址になっている。本遺跡でもその延長が検出され、M1からは古墳時代中期の土器群、M2からは弥生時代後期終末の土器群を出土している。M

2からM1に新しく内周して溝が付け替えられたようである。M1は北傾斜する地形とは逆に北から南に低く、箱形の断面形、幅330～360cm、深さ90cmと人工的に作られている。西一本柳Ⅲ・Ⅳの東に続く西一本柳Ⅶ（『佐久市埋蔵文化財年報8』）でもM1は検出され、下層から弥生時代後期終末の土器群がまとまって出土している。このことから、弥生時代後期終末に作られた溝が、古墳時代中期以降にさらに再利用され、一部は新たに構築されたようである。

土坑ではD1が224cm×116cmの長方形プランを持ち、人骨頭部骨、歯を出土している。時期が判明する実測土器はないが、重複しているH3号住居址より新しく古墳時代後期の土器片、白玉などから古墳時代と思われる。

### 3. 奈良・平安時代

#### 遺物

H1号住居址からは、薄い器肉の武蔵型甕や内面黒色処理の土師器杯の破片など、奈良～平安時代の所産の土器が出土している。

#### 遺構

H1は北壁にカマドを持つ住居址で、主柱穴はわからなかった。やや東西に長い240cm×260cmの方形で小規模な住居址である。

D2・D5は井戸址であり、北斜面の湧水を利用して、比較的浅い井戸が掘られたようである。2基の内D2は平面形が隅丸方形を呈し、上面には多数の礫があった。平安時代の土器片のみを含んでおり、この時期の構築であろう。

### 4. 中世

D3号土坑は池と思われ、中世の常滑甕、珠洲系甕片を出土し、中世に利用された可能性を持つ。

### 5. その他

掘立柱建物址は10棟検出された。重複関係と土器片から、古墳時代後期の住居址を切っているF3・F8は古墳時代後期以降、また主軸方向の近いF1・F5・F6などもほぼ同時期であろう。時期を特定する資料はない。規模は桁行が4～5m、梁行が3.6～3.9mの中規模なものが多い。

### 6. まとめ

西一本柳遺跡は遺構の密集する遺跡であり、本報告地点は、この遺跡の中では遺構の疎らかな所である。すでに述べたように集落の北限が確認され、井戸址や池があり、この台地の生活域の北限でもある。北の低地には水田層の存在があり、古い段階から生産域であることも判明した。弥生時代中期の竪穴住居址の床は非常に締まっており、入念に床面を整えているようである。古墳時代の住居址ではカマドの脇に設置した甕や、カマド右側が調理をする空間なのか甕・鉢・杯などが多くみられ、古代の生活をかいま見ることができた。

これから台地を東西方向に横切る道路も計画されており、佐久有数の遺跡の一つである西一本柳遺跡の全容がこれからますます明らかにされて行くことであろう。これからの調査が期待される。

#### 引用・参考文献

1. 1984 佐久市教育委員会『北西の久保』（第1次発掘調査）
2. 1987 佐久市教育委員会・佐久埋蔵文化財調査センター『北西の久保』（第2次発掘調査）
3. 1999 佐久市・佐久市教育委員会『西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ』
4. 1999 長野県土地開発公社・佐久市教育委員会『五里田遺跡』
5. 1999 長野県考古学会弥生部会編『長野県の弥生土器編年発表要旨』
6. 2000 " 『佐久市埋蔵文化財年報8－西一本柳遺跡Ⅶ報告書－』

佐久市西一本柳遺跡Ⅴの出土人骨について

聖マリアンナ医科大学 解剖学室  
平田 和明 奥 千奈美

I. はじめに

佐久市に所在する一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅴから出土した所属年代不明の人骨1体について佐久市教育委員会から鑑定を委託されたので、ここに結果を報告する。

II. 人骨の出土状況

出土した人骨は、保存状態が悪く、遊離歯の歯冠部だけが残存する。年齢の推定は可能であったが、性別は不明である。

III. 人骨の所見

鑑定を行った人骨1個体について、以下に記載を行う。歯式の表記は、数字は永久歯の残存を、×は欠損を示す。

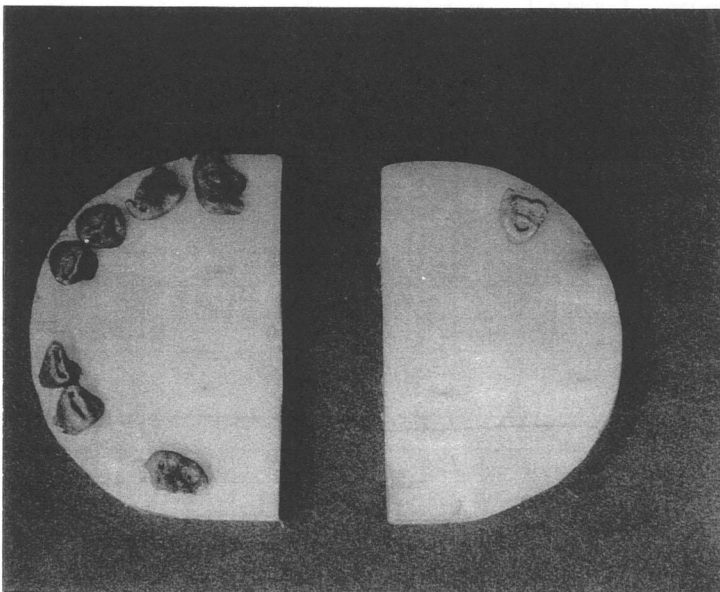
1) D1人骨(性別不明・壮年期)(時代不明)(写真1)

遊離歯だけが残存し、保存状態が悪く、歯冠のエナメル質だけが認められる状態である。歯の咬耗度はMartinの1～2度であることから壮年期であると推定される。また、観察可能歯に齲蝕は認められなかった。

××××4×××	××××××××
×76×43××	×23××6××

IV. まとめ

佐久市西一本柳遺跡出土の所属年代不明の人骨は保存状態が極めて不良であるが、性別不明の壮年期人骨1個体分であると推定される。



第2表 西一本柳遺跡V・VI遺構一覧表

西一本柳遺跡V住居址一覧表

番号	出土位置	規模 (cm) 南北×東西×深さ	形態	カマド・炉	火処位置	長軸方位	時代	備考・重複関係
H1	Bい9	240×260×6~20	方形	カマド	北壁	N-91° -E	平安	H3を切る。周溝あり。
H2	Cお1	580×500×0cm	隅丸長方形	炉	中央	N-32° -E	弥生	M1・M6に切られる。周溝あり。 INPⅢで一部調査。
H3	Bい9	530×(480)×8~16	隅丸長方形	炉	〃	N-5° -E	弥生	H1・F9に切られる。周溝あり。
H4	Dう10	270×346×32~40	長方形	カマド	東壁	N-115° -E	古墳	F8に切られ、H5を切る。 周溝あり。
H5	Bえ8	534×460×6~16	隅丸長方形	炉	中央	N-0°	弥生	H4・D7・F9に切られる。周溝あり。
H6	Dえ1	-×-×30	-	-	-	-	古墳	M6に切られる。南西隅のみ調査。
H7	Dい1	640×640×20~30	方形	カマド	北壁	N-0°	古墳	M6・F3・F8に切られる。周溝あり。 南西区は区域外。INPⅢ時一部調査
H8	Cえ1	700×-×8~16	隅丸長方形	炉	北主柱穴間	N-10° -E	弥生	M6に切られる。 INPⅢで一部調査。

西一本柳遺跡V掘立柱建物址一覧表

番号	出土位置	様式	桁行×梁行(間)(cm)	長軸方向	柱穴規模(長径×深さ)	備考
F1	Aこ8	側柱式	3×3(456×400)	N-83° -W	172~204×56~80×35~53 68~76×30~59.5	F5・F6を切る。溝持ちピットと組み合う。 中間ピットの柱間狭い。
F2	Bい8	〃	2×1(240・268×256)	N-0°	32~44×20~35	
F3	Bい10	〃	1×1(292×240)	N-97° -E	60~76×19~53	F8・H7を切る。
F4	Aか5	-	2×-(376×-)	N-9° -W	28~48×26~45	M3を切る。東は調査区域外。
F5	Aこ8	側柱式	3×3(520×520)	N-16° -E	48~70×15~50	F1に切られる。
F6	Aこ8	〃	3×3(404×364)	N-13° -E	51~64×27~64	F1に切られる。INPⅡ調査時に南西ピット破壊
F7	Aき8	〃	1×1(232×180)	N-6° -E	40~52×23~42	
F8	Bい10	総柱	2×2(400×376)	N-110° -E	32~70×12~37	H3・4・7を切る。F3に切られる。
F9	Bい8	総柱	2×2(508×392)	N-93° -E	40~57×15~37	H1に切られる。H1により非菓子中央穴破壊。
F10	Aけ10	-	-×1(380×188)	N-20° -W	34~52×23~39	INPⅡ調査時に中間のピット破壊か

西一本柳遺跡V土坑一覧表

番号	出土位置	規模(長径×短径×深さcm)	形態	備考
D1	Bえ9	224×116×17	長方形	墓壇。人頭骨・歯、白玉、弥生中期・古墳後期土器片
D2	Bう2	116×116×86	隅丸方形	井戸址。
D3	Aく3	414×258×38	楕円形	池。常滑甕・珠洲系甕片出土。
D4	Aけ4	110×96×11	楕円形	
D5	Bあ3	134×128×75	円形	井戸址
D6	Aか8	124×76×27	楕円形	炭化物・焼土層あり。
D7	Aき8	216×-×16	不整隅丸方形	

西一本柳遺跡V溝状遺構一覧表

番号	検出位置	幅(cm)	深さ(cm)	溝の高低(cm)	出土遺物
M1	Aか7~Cか2	330~360	86~93	北から南(7)	弥生・古墳土器片・白玉
M2	Aく4~Cく2	186~258	13~39	南から北(32)	弥生・古墳土器片
M3	Aき6~Aけ6	90~112	17~29	東から西(27.5)	弥生・古墳・平安土器片
M4	Aく4~Aく10	60~134	5~25	差なし	弥生・古墳・平安土器片



M5	Aか7～Aく8	112～146	57～58	東から西(10)	弥生土器片・石製品
M6	Cあ1～Dえ1	196～222	28～43	東から西(65)	弥生・古墳・平安土器片
M7	Aき4～Aこ7	170～230	10～54	西から東(13)	弥生・古墳土器片
M8	Aき3～Aく4	34～52	9～11	北から南(3)	弥生・古墳土器片
M9	Aく4～Bあ5	42～44	11～21	北から南(4)	
M10	Aき3～Aこ5	56～108	13～18	北～南(13)	弥生土器片
M11	Aき2～Aこ3	120～134	7～9	北から南(19)	弥生・古墳
M12	Aお9	26～36	18～22	北～南(10)	弥生土器片
M13	Aか9	26～40	5～13	北から南(1)	弥生土器片
M14	Aか4～Aけ7	28～52	5～13	中程が深い	
M15	Aく5	26～36	6～19	差なし	

西一本柳VI溝状遺構一覧表

番号	検出位置	幅(cm)	深さ(cm)	溝の高低(差cm)	出土遺物
M1	Eき1～Dう1	46～62	2～26	東から西(28cm)	土器10片弥生・古墳
M2	Fあ1	32	4～7	差なし	土器10片弥生・薄片石器
M3	Cき10・Eく1	28～40	1～5	北から南(11cm)	I N P VM11と関連か
M4	Cき10	50	8.5	—	
M5	Cく4～Dう4	26～92	2～10	東から西(18cm)	土器片弥生・かわらけ
M6	Cく3～Dう3	32～70	3～5	東から西(27) cm	陶磁器3
M7	Aく7～Bあ7	90～108	0～5	東から西(11cm)	

西一本柳遺跡VI単独ピット一覧表

No.	出土位置	規模(長径×短径×深さ)	平面形	覆 土	備 考
1	Cけ7	50×28×9	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/2) ローム粒子・パミス含む。	
2	Cく6	35×23×9	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/2) ローム粒子・パミス含む。	
3	Cけ6	21×20×9	円形	1. 黒褐色土層(10YR2/3) ローム粒子多く含む。	
4	Cけ6	16×11×5	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/3) ローム粒子多く含む。	
5	Cけ5	29×26×7	円形	1. 黒褐色土層(10YR2/2) ローム粒子・4cm大の石含む。	
6	Cけ5	28×19×17	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/2) ローム粒子・4cm大の石含む。	
7	Cけ5	43×32×20	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/2) ローム粒子・石含む。	
8	Cけ5	27×26×16	円形	1. 黒褐色土層(10YR2/2) ローム粒子・細礫含む。	
9	Cけ5	24×21×21	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/2) ローム粒子・細礫含む。	
10	Cく5	36×30×11	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/2) ローム粒子・細礫含む。	
11	Cこ4	28×24×18	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/2) ローム粒子・細礫含む。	
12	Cけ4	25×22×14	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/2) ローム粒子・細礫含む。	
13	Cけ5	26×23×15	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/2) ローム粒子・細礫含む。	

西一本柳遺跡V単独ピット一覧表

No.	出土位置	規 模 (cm) 長径×短径×深さ	平面形	覆 土	備 考 (重複関係・出土遺物・他)
87	Aき8	66×66×18	円形	1. 黒褐色土層(10YR2/3) ローム粒子含む。 2. 暗褐色土層(10YR3/4) ロームブロック含む。	
88	Aく6	24×(24)×22	円形	1. 黒褐色土層(10YR2/2) ローム粒子・パミス含む。	
89	Aく6	26×18×17.5	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/3) 0.5cm大のロームブロック含む。	
90	Aき8	32×30×40	円形	1. 黒褐色土層(10YR2/3) ローム粒子含む。 2. 暗褐色土層(10YR3/4) ロームブロック含む。	土師器丸胴甕
91	Bあ2	68×64×29	円形	1. 黒褐色土層(10YR2/2) 細かいパミス含む。粘性あり。	
92	Aこ2	70×(60)×16	楕円形	"	P93に切られる。
93	Aこ2	36×26×12	楕円形	"	P92を切る。
94	Aこ2	36×34×8	円形	"	
95	Aこ2	50×50×6	円形	"	

西一本柳遺跡V単独ピット一覧表

No.	出土位置	規 模 (cm) 長径×短径×深さ	平面形	覆 土	備 考 (重複関係・出土遺物・他)
1	A<5	36×28×32	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 細かいパミスを含む。	M3を切る。弥生無彩壺片。
2	A<6	44×32×53	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 細かいローム・パミス粒を含む。 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロックを含む。	
3	A<6	36×30×20	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 細かいローム・パミス粒を含む。 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロックを含む。	須恵器大甕片。
4	A<6	34×30×22	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ~3mm大パミス粒を含む。 2. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子多くを含む。	
5	A<6	46×40×26.5	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ~3mm大パミス粒を含む。 2. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子多くを含む。	弥生無彩壺片。
6	A<6	86×40×25.5	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) パミスロム含む。 3. 褐色土層 (10YR4/6) ロム主体	
7	A<7	26×20×20	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕。ローム粒子含む。 2. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子含む。	
8	A<7	34×28×22	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2)	
9	A<7	36×34×39	円形	1. 黒褐色土層 (10YR3/2) ロームブロック1cm大含む。 2. 褐色土層 (10YR4/6) ローム主体。	
10	A<7	28×24×23	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 2. 褐色土層 (10YR4/4) ロームに黒色ブロック含む。	
11	A<6	46×32×37.5	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロック多く含む。 2. 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。	P12を切る。
12	A<6	32×30×36	円形		
13	A<7	64×34×35	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 2. 黒褐色土層 (10YR3/2) ロームブロック含む。 3. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒子多く、ロームブロック含む。	
14	A<7	40×28×10.5	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子含む。 2. 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームブロック含む。	
15	A<7	54×20×22.5	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム・パミス含む。 2. 黄褐色土層 (10YR5/6) ローム主体。	
16	A<5	32×24×12	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 柱痕。 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 炭化物粒子含む。	
17	A<5	24×24×10	円形	"	
18	A<6	28×28×15	円形	"	
19	A<7	24×24×20	円形	"	
20	A<8	34×28×15.5	楕円形	"	
21	A<8	28×28×8.5	円形	"	
22	A<8	30×30×33	円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 炭化物粒子・小石含む。 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂粒・ローム粒子多く含む。	
23	A<8	28×20×19	楕円形	"	
24	A<8	34×24×27	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ~1cm大小石含む。	
25	A<8	26×18×27.5	楕円形	"	
26	A<7	16×14×20.5	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。 2. 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームブロック含む。	M4を切る。須恵器瓶片。 M4を切る。
27	A<7	46×28	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。	
28	A<6	48×40	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 柱痕。ローム粒子含む。	
29	A<9	30×28×43	円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。 2. 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームブロック多く含む。	
30	A<9	28×26×71	円形	"	
31	A<9	40×36×22	円形	1. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒子多く含む。 2. 褐色土層 (10YR4/6) ローム主体。	
32	A<7	80×60	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロック含む。	
33	A<4	34×24×30.5	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・炭化物粒子含む。	
34	A<4	28×24×8.5	楕円形	"	
35	A<4	28×28×11	円形	"	
36	A<9	24×18×21	楕円形	1. 暗褐色土層 (10YR3/3) 炭化物粒子含む。	
37	A<9	36×36×22	円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 小パミス含む。 2. 褐色土層 (10YR4/4) ローム粒子多く含む。	
38	A<9	32×28×24	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子含む。 2. 黄褐色土層 (10YR5/6) ローム主体。	
39	A<8	22×22×12.5	円形	1. 暗褐色土層 (10YR3/4) 1cm大パミス。ローム粒子含む。	
40	A<8	50×32×21	楕円形	1. 褐色土層 (10YR4/4) 炭化物・焼土粒子含む。	
41	A<8	24×20×-	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・パミス含む。	F1に切られる。
42	B<7	20×14×19	方形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3)	